

有限会社 TEM'S 様

製造No. : 2207029

---

MP-03BVP

取扱説明書

 兼松エンジニアリング株式会社  
KANEMATSU ENGINEERING CO.,LTD.

本書は、いつも車内に保管しておいてください



このたびは、K & E の車両をお買い上げ  
いただきまして誠にありがとうございます。

本書は、安全かつ快適に車両をご使用いただくために、  
取扱上の注意事項・正しい操作方法及び保守・点検の方法等  
について書いております。

ご使用の前に必ず本書をお読みください。

- ・とくに「安全の為に守ってください」の各項目は  
重要ですのでよくお読みください。
- ・本書と自動車メーカーの取扱説明書を併読してください。

### 警告ランクについての説明

本書では事故防止、ならびに安全上ぜひ守って頂きたい  
重要事項を下記の内容により分類しております。

- ⚠ 危険：死亡または重傷を負う危険が  
差し迫っている場合。
- ⚠ 警告：死亡または重傷を負う可能性が  
想定される場合。
- ⚠ 注意：傷害を負う可能性が想定される場合  
及び財産上の損害が発生する可能性  
がある場合。

※仕様変更や改良等により、本書の内容と装置が若干異なる場合があります。  
あらかじめご了承ください。

## 使用済み商用車架装物

### リサイクルへの取り組みについて

- ・製品廃棄時、分別・解体を行う事が可能な業者へ廃棄を委託し、適正な処理、処分を行ってください。詳細は、（社）日本自動車車体工業会のホームページ（アドレス <http://www.jabia.or.jp>）内の商用車架装物リサイクル・適正処理に関する「協力事業者制度」をご覧ください。
- ・廃棄する場合の注意事項

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の第三条において

“事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない”

と書かれています。

従いまして、廃棄する目的で取引業者に渡す場合、タンク内及び配管内を洗浄して、解体時に内容物の害がない事をご確認後、引取業者に渡してください。

また、洗浄後の洗浄液は適正な方法にて処理をお願いします。

自家にて洗浄出来ない場合は、許可を受けた洗浄業者に依頼するなどして、処理をお願いします。また、引取業者へ渡す際には、「最終積載物の名称、性状等」を明示してください。

## K & E 製品メンテナンス時等における

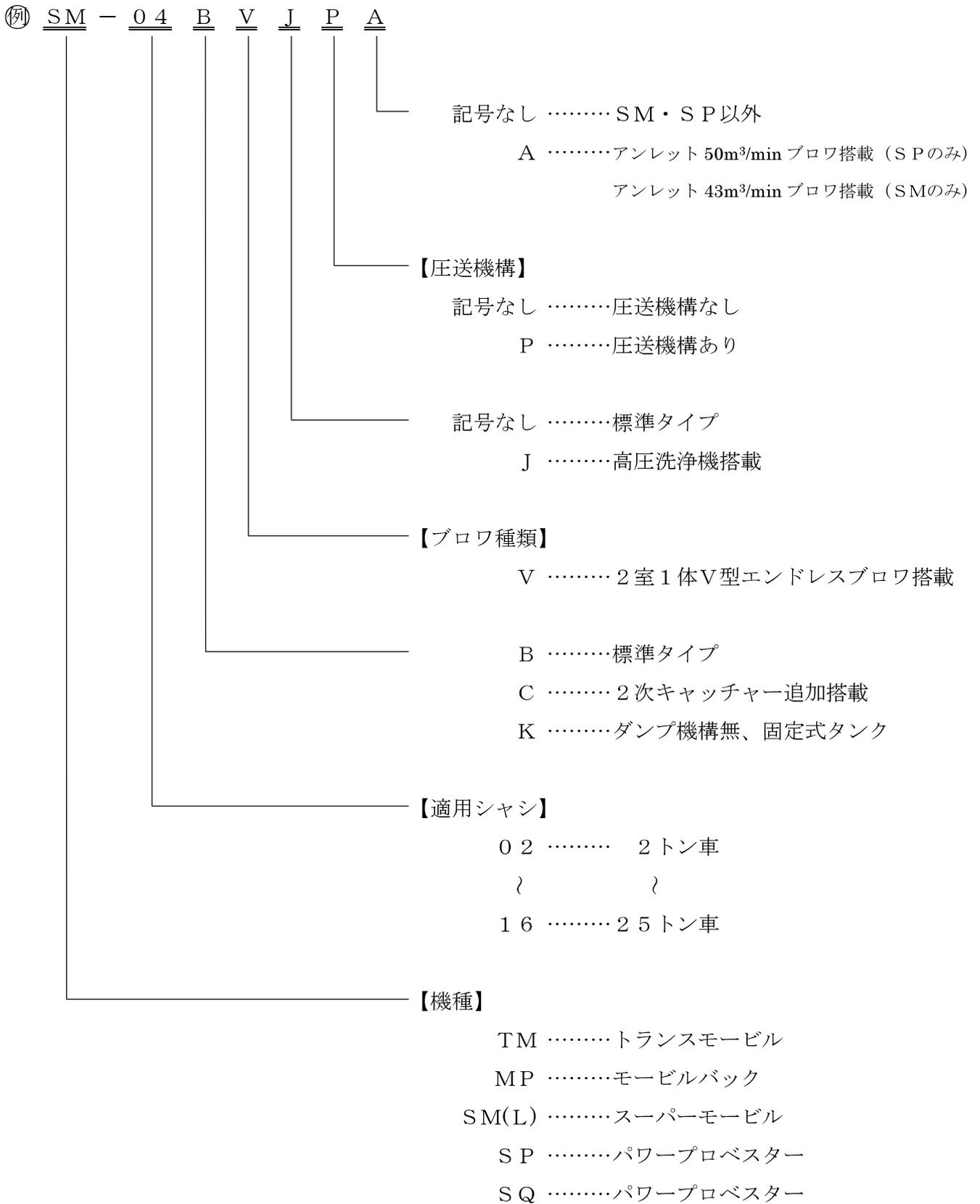
### 廃棄物の適正処理のお願い

K & E 製品メンテナンス時等に発生する下記廃棄物は、産業廃棄物扱いとなりますので、適宜適正に処理をしていただきますよう、お願い申し上げます。

- 2次キャッチャー・バグタンク内の堆積ダスト
- 3次・4次キャッチャー内の水、ブロワ循環水、及び各ドレンバルブからの排水
- 各部に給油・給脂する油脂類
- 各部ホース・チューブ類
- 各部パッキン・駆動部Vベルト・その他ゴム類全般
- ブロワ循環水及び3次・4次キャッチャーに使用した不凍液
- カートリッジフィルタ・バグフィルタ等のフィルタ類、及びエアキャンバス
- その他交換時に廃棄される各種部品類

等

# = 型 式 早 見 表 =



# = も く じ =

## 1. 製品について

主要諸元表	-----	1-1-1	
外観図	-----	1-2-1	～ 2
主要機器の機能	-----	1-3-1	～ 6
フローシート	-----	1-4-1	

## 2. 安全の為に必ず守ってください。

始業時	-----	2-1-1	
作業時	-----	2-2-1	～ 7
点検・清掃時、保管時	-----	2-3-1	～ 4
点検・整備時	-----	2-4-1	～ 3
コーションプレート取付位置図	-----	2-5-1	

## 3. 操作説明

作業回転数一覧表	-----	3-1-1	
Vベルト張力管理表	-----	3-1-1	
始業点検	-----	3-2-1	
吸引時	-----	3-3-1	～ 2
排出時	-----	3-4-1	～ 2
圧送時	-----	3-5-1	～ 2
終業点検	-----	3-6-1	

## 4. 保守・点検

給油・給脂	-----	4-1-1	～ 2
アワメータによる油脂管理方法	-----	4-1-3	
Vベルトの張り方	-----	4-2-1	～ 2
ハッチロック調整	-----	4-3-1	
ブロワ故障防止	-----	4-4-1	～ 2
凍結防止	-----	4-5-1	
ブレーカの設定要領	-----	4-6-1	
その他	-----	4-7-1	～ 2

## 5. 故障の原因と対策 ----- 5-1-1 ～ 4



# 主要諸元表

適用機種	吸引風量	動 力	吸引静圧	圧送圧力	レシーバータンク
MP-03BVP	* 1 20 m <sup>3</sup> /min	32 kW	* 2 -96 kPa	* 3 0.07 MPa	(分離方式) 重力沈降式  (総容積) 車両銘板にて 確認ください。
				3次キャッチャー	4次キャッチャー
				(分離方式) 湿 式  (水容量) 45 ℓ	(分離方式) 湿 式  (水容量) 45 ℓ

## 【補足説明】

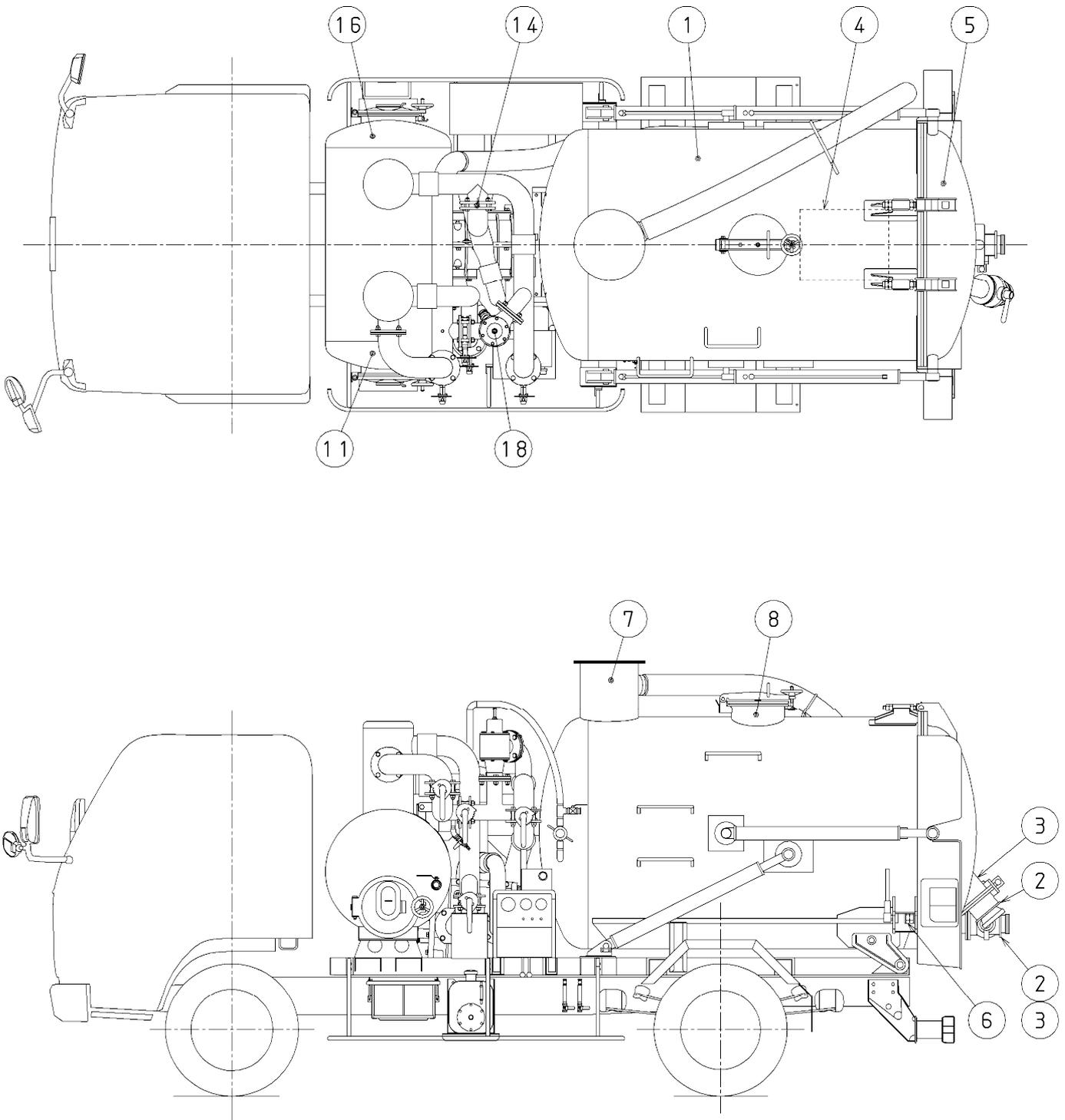
\* 1 吸引風量；-13kPa 時の風量です。

\* 2 吸引静圧；バキュームブレーカ有 ～ バキュームブレーカで設定した圧力です。  
；バキュームブレーカ無 ～ 封入水温 15℃時の最高到達圧力です。

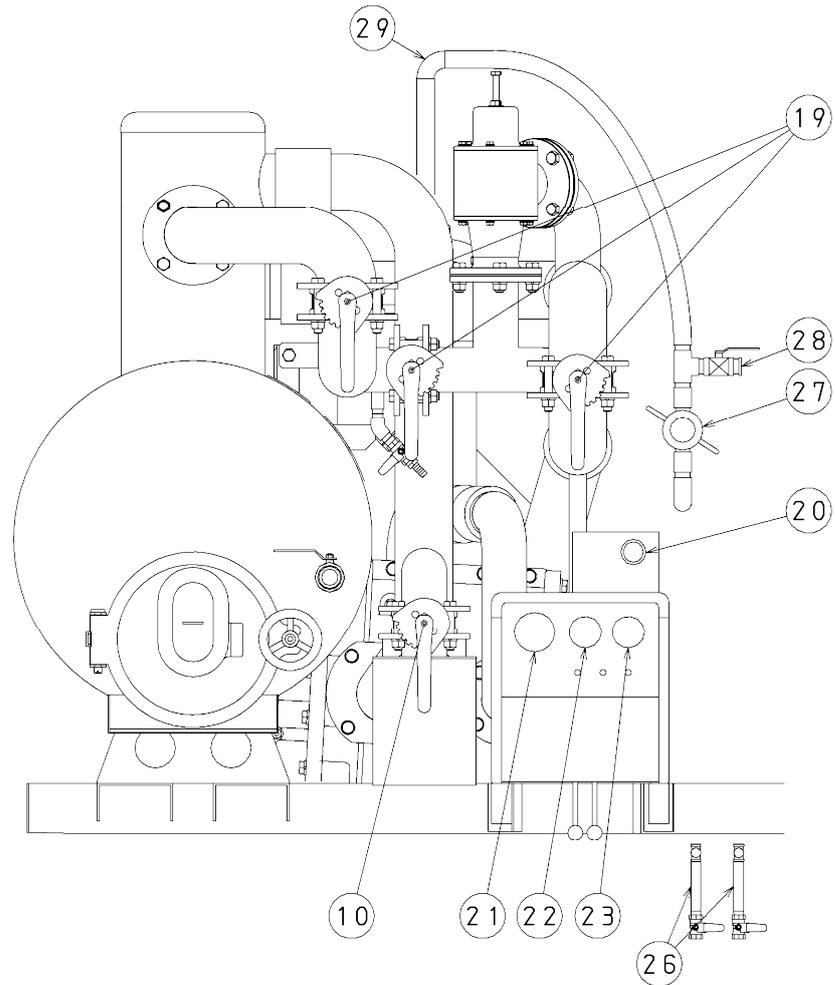
(吸引静圧は、大気圧や封入水温の影響で設定値まで上がらない場合がありますので、ご注意ください。)

\* 3 圧送圧力；プレッシャーブレーカで設定した圧力です。

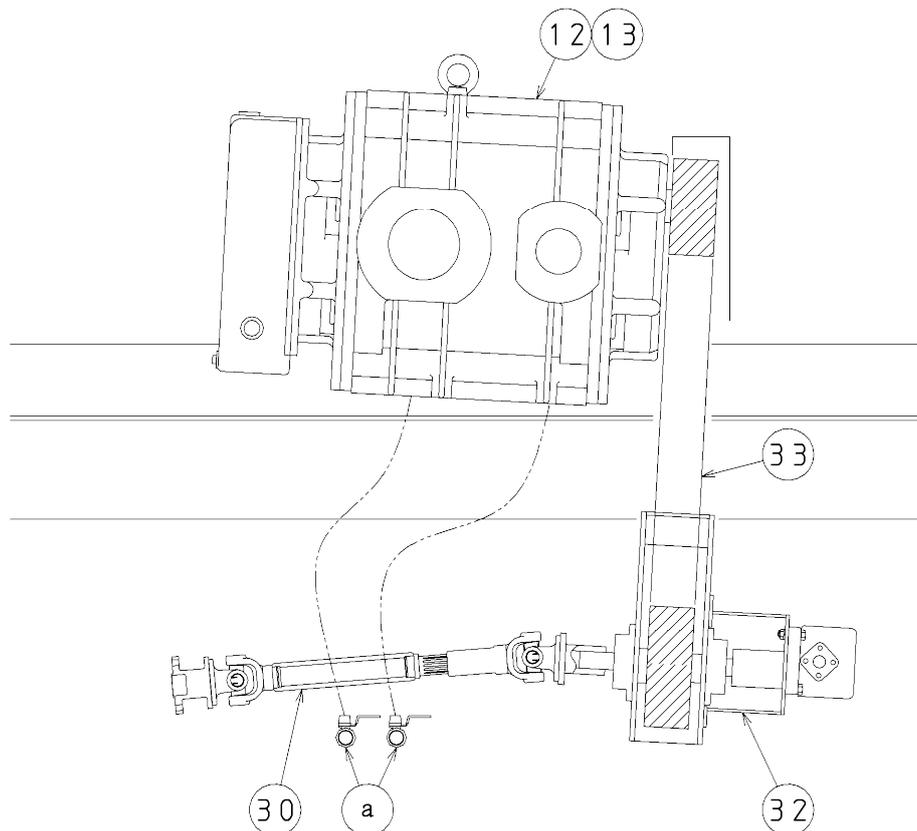
# 外觀圖



# 外 観 図



※(20)スロットルは、仕様により操作盤周囲の別位置に取付の場合があります。



# 主要機器の機能

---

## 1. レシーバータンク

回収物を蓄積するタンクです。吸引ホース内を高速で運ばれた回収物がこのタンク内に入ると、極端に流速が落ち、比重の重い回収物は重力によりタンク底部に蓄積されます。

## 2. 吸引バルブ・排出バルブ

回収物を吸引・排出するバルブです。バルブの開閉は確実に操作してください。全開・全閉でない状態で使用すると、摩耗が早くなり破損や漏れの原因となります。

## 3. 吸引管・排出管

レシーバータンクへの回収物を吸引・排出する管です。

吸引管はレシーバータンク内部上方に突き出ています。また、吸引管を通過する回収物は流速が早く、管の摩耗が早い為、肉厚管を使用しています。摩耗し穴があくと、吸引能力が著しく低下します。穴があきそうな場合は、交換してください。

## 4. 当たり板

吸引管を通過した回収物がレシーバータンクに直接当たらないよう、また、回収物の流速を落とす為、レシーバータンク上面に取り付けしている板です。摩耗し穴があきそうな場合は、交換してください。また、粘土質のものを吸引すると、当たり板と吸引管の間につらら状に付着して、吸引能力を落とす場合があります。作業後は、必ず点検するようにしてください。

## 5. レシーバーハッチ

油圧シリンダで開閉を行い、レシーバータンク内の回収物を排出する蓋です。

レシーバーハッチ開閉操作は、ハッチロック装置が確実に解除されている事を確認の上、行ってください。レシーバーハッチを開けたままの走行は、絶対にしないでください。

レシーバーハッチには、ハッチパッキンを取り付けしています。ハッチパッキンは消耗品です。劣化・摩耗・キズ等で、回収物が漏れるおそれがあります。作業後は、ハッチパッキンの状態を確認してください。

## 6. ハッチロック

圧送作業時や回収物の影響などで、レシーバーハッチが開く事を防止する装置です。

レシーバーハッチを閉じている時は、必ずハッチロックをかけるようにしてください。

ハッチパッキンが劣化すると、ロックが緩くなり回収物の漏れにつながります。定期的に調整をしてください。

# 主要機器の機能

---

## 7. 満量装置

液体の回収物以外は作動しません。

レシーバータンクの回収物（液体）のレベルが上がってくるに従って、満量装置内部のボールも3次キャッチャーへの流入口に近づき、満量になると3次キャッチャーへの流入口を閉鎖し、吸引作業をストップします。

また、通常作業と比較して満量時期が余りにも遅いと感じた場合は、作業を一時停止して、レシーバータンク上部の点検口から回収物の蓄積状態を確認してください。万一満量ボールが割れたりした場合に、継続して吸引作業をしていると、レシーバータンクが満量、さらに各キャッチャーも満量となり、さらにはブロワまで回収物が入ります。その場合、ブロワをオーバーホールしなければならない状態となるおそれがあります。十分注意し、毎日点検してください。

（保守・点検 [ブロワ故障防止] 「満量事故防止」 P. 4-4-1 参照）

## 8. 点検口

レシーバータンク内部を確認・点検する為の窓です。

## 9. 2次キャッチャー（パワープロベスターは標準装備）

レシーバータンクを通過したダストを、遠心力（サイクロン方式）によって分離・回収する装置です。ダストは、底部の回収室に蓄積されます。定期的に取り出しより清掃を行ってください。

## 10. 負荷解放弁

ブロワ始動時にエンジン等に過負荷を掛けないよう、また停止時にレシーバータンク及び各キャッチャー内の真空を解放する為の弁です。圧送作業時には使用しません。ブロワ始動時及び停止時は、必ず弁を開いた状態にしてください。

吸引作業停止時の操作は、この弁を開放した後、真空圧が十分抜けてから作業回転を下げてください。真空圧が抜けないまま急激に回転を下げると、レシーバータンク内及び各キャッチャー内に残っている真空圧の影響で、ブロワが逆転を起こし、故障の原因となります。必ず守ってください。

## 11. 3次キャッチャー

レシーバータンク等で回収できなかったダストを、封入した水によって捕集する装置です。長時間吸引作業を行っている時、封入水は汚れてきます。また回収物によって、水の汚れ方が違います。汚れてきたら作業を一旦中断し、ドレンバルブや取出口を開けて水を排出し、内部を清掃後、規定の位置まで水を入れてください。

吸引作業時に封入水の水位が上がったら、作業をすぐに止めてください。3次キャッチャー内に、回収物が入ってきている可能性があります。

# 主要機器の機能

---

## 1 2. ブロワ

特殊な形状をした羽根（インペラ）が内部で回転し、風の流れを起こし真空圧を発生させています。ブロワ本体（ケーシング）と羽根（インペラ）、羽根（インペラ）同士の隙間は1mm未満と非常に狭く、また羽根（インペラ）の材質も鋳鉄である為、冷却水の残水により錆が発生すると、羽根（インペラ）が固着し回らなくなります。作業終了後はa部のブロワドレンバルブを開き、ブロワ内の水を抜いてください。その後、空運転を行い、ブロワ内部を乾燥させてください。

（操作説明〔終業点検〕P. 3-6-1参照）

ブロワには、ギヤ及びベアリング用のオイルとグリスが必要です。P. 4-1-2〔給油・給脂表〕に記載されている交換時期・油脂の種類を厳守し、交換・給脂を行ってください。

## 1 3. SHAC (Self-help Air Conditioner)

ブロワを駆動させると圧縮熱や動力損失が発生し、循環水の温度が上昇します。この循環水温度の上昇は、やがて吸引能力の低下へとつながっていきます。この装置は、外気を直接ブロワ内に取り入れて冷却することで、吸引能力の低下を抑えます。

## 1 4. 逆止弁（2室一体型ブロワ搭載車両に取付）

ブロワ（1段目）を通過した空気は、ブロワ（2段目）の容量が小さい為、真空圧が低い状態では全ての空気が通過できないので、ブロワ（1段目）吐出側とブロワ（2段目）吐出側を配管で接続し、ブロワ（2段目）を通過できなかった空気をそのままブロワ（2段目）吐出側に送っています。ただし、ブロワ（2段目）吐出側の空気がブロワ（2段目）吸込側に戻ってしまうので、逆流を防止する為に設けている弁です。

## 1 5. 吐出サイレンサ（パワープロベスターは標準装備）

ブロワからの排気音を低減する消音装置です。

## 1 6. 4次キャッチャー

3次キャッチャーと同様に水を必要としますが、3次キャッチャーと役割は異なります。

この封入水は、ブロワの冷却・ブロワ内の清掃・ブロワ内のシール（隙間をなくし効率よく真空圧を上げる）など、非常に重要です。

またこの水は、上部排気筒から蒸気となって大気に放出されて減少します。汚れてきたり、水が少なくなってきたら作業を一旦中断し、補充あるいは交換してください。

# 主要機器の機能

---

## 17. バキュームブレーカ（パワープロベスターは標準装備）

過負荷防止装置です。真空圧が設定値を超えるとブレーカが作動し、空気が機器内に入って真空圧を下げます。設定真空圧力以上に圧力を上げて、作業をしないでください。過負荷となり、故障の原因となります。

（保守・点検 [ブレーカの設定要領] P. 4-6-1 参照）

## 18. プレッシャーブレーカ（圧送機構付きのものは標準装備）

過負荷防止装置です。圧送圧が設定値を超えるとブレーカが作動し、圧力が逃げ圧送圧が下がります。設定圧送圧力以上に圧力を上げて、作業をしないでください。過負荷となり、故障の原因となります。

（保守・点検 [ブレーカの設定要領] P. 4-6-1 参照）

## 19. 吸引・排出切換弁（圧送機構付きのものは標準装備）

配管内の空気の流れを切り換え、吸引・圧送を行う弁です。通常は吸引側にしてください。切り換えには順番があり、間違えるとブロワ等に負荷がかかり、故障の原因となります。注意してください。

（操作説明 [吸引時～圧送時] P. 3-3-1～3-5-2 参照）

## 20. スロットル

吸引作業や圧送作業、排出作業時の作業回転数を調整する装置です。

吸引作業終了時は、負荷解放弁を開放して真空圧が十分抜けた事を確認してから、エンジン回転をゆっくり下げてください。高真空圧時、または急激に下げると、機器内の真空圧によりブロワが逆転し、故障の原因となります。

作業終了時に、スロットルでエンジン回転を完全に戻していない（アイドルリング状態になっていない）場合、次回作業時に回転が上がらなくなるシャーンがあります。注意してください。

また、エンジン回転が低い状態でPTOを長時間接続していると、エンジンや駆動部に低速振動が発生し消耗の原因となります。アイドルリングでPTOを長時間接続せず、不必要な時はPTOを切る、もしくは回転を上げるようにしてください。

## 21. アワメータ内蔵回転計

吸引作業や圧送作業・排出作業には、設定回転数があります。回転数をセットする時に確認する計器です。必ず設定回転数内で作業を行うよう、確認してください。

（操作説明 [作業回転数一覧表] P. 3-1-1 参照）

アワメータは、機器の作動時間を確認する計器です。

（保守・点検 [アワメータによる油脂管理方法] P. 4-1-3 参照）

# 主要機器の機能

---

## 2 2. 真空計（トランスモービル以外は標準装備）

機器内の真空圧力を確認する計器です。

## 2 3. 空圧計（トランスモービル以外と圧送機構付きのものは標準装備）

機器内の圧送圧力を確認する計器です。

## 2 4. 連成計（トランスモービルは標準装備）

機器内の真空圧力及び圧送圧力を確認する計器です。（No. 2 2 真空計とNo. 2 3 空圧計が一つになったものです。）

## 2 5. 欠 番

## 2 6. ドレーナー

真空計や空圧計・連成計は、空気配管に接続し機器内の圧力を表示します。その為、配管内部の水分等が直接計器に入らないように設けている装置です。作業終了後は下部のドレンバルブを開け、内部に溜まった水分等を排出してください。

## 2 7. フローゲージ（冷却水循環ホース）

4次キャッチャー水がブロワ内部へ流れているか、確認する装置です。圧送時や低真空時には通常水は流れませんが、もし水が流れるとブロワシール部から水が漏れるおそれがあります。注意してください。また、吸引作業時に水が流れていなければ、ブロワが熱で焼き付きを起こします。定期的に流水確認を行ってください。水が流れない原因としては、4次キャッチャー水の減少や冷却水ラインが閉塞している、等が考えられます。

## 2 8. インペラ給油口

車両を長期使用しない時、ブロワの錆び付きを防止する為に、ブロワ内にオイルを吸引させる給油口です。空運転を行った後、約200ccの油を吸引させる事で、羽根（インペラ）表面に油の皮膜を作り、錆の発生を防ぎます。また、寒い時期には不凍液を吸引させ、ブロワの凍結を防止します。

（保守・点検 [凍結防止] P. 4-5-1 参照）

## 2 9. サイホン防止穴

冷却水配管のエルボ部に小さな穴を開けています。ブロワ停止後この穴から空気が入ることにより、サイホン現象を起こさないようにする為のものです。穴を塞いだまま吸引作業を行うと、ブロワ内に余分な水が流れ、ブロワシール部からの水漏れやキャビテーションの原因にもなります。この穴を塞がないようにしてください。

# 主要機器の機能

---

## 30. ユニバーサルジョイント（パワープロベスター以外は標準装備）

車両P T Oの動力を、当社搭載の駆動部に伝達するジョイントです。この部分が破損すると、作業が行えなくなります。P. 4-1-2 [給油・給脂表]に記載されている交換時期・油脂の種類を厳守し、定期的に給脂を行ってください。

## 31. 等速ボールジョイント（パワープロベスターは標準装備）

車両P T Oの動力を、当社搭載の駆動部に伝達するジョイントです。ユニバーサルジョイントとは構造が異なり、グリスは封入式ですので給脂は必要ありません。長期使用すると、グリスや他の消耗部品が劣化します。P. 4-1-2 [給油・給脂表]に記載されている交換時期・油脂の種類を厳守し、定期的にオーバーホールを行ってください。

## 32. 軸受

ユニバーサルジョイントあるいは等速ボールジョイントから伝達された動力を、Vベルトを介してブロワに伝達する装置です。

軸受にはグリス給脂が必要なものがあります。P. 4-1-2 [給油・給脂表]に記載されている交換時期・油脂の種類を厳守し、定期的に給脂を行ってください。

軸受内にグリスを封入するタイプのものは、グリスドレン口からオーバーフローさせてください。

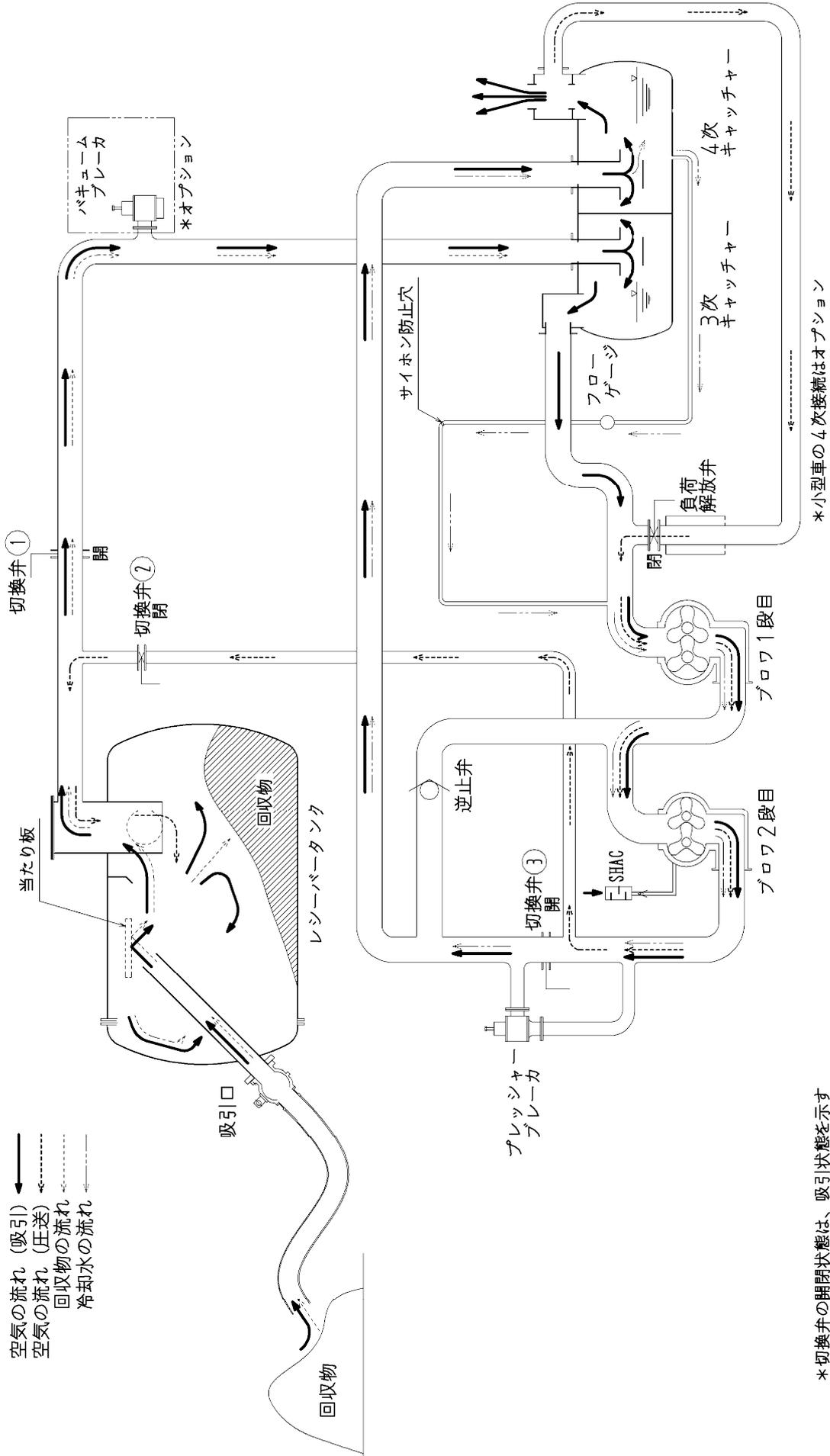
## 33. Vベルト

軸受とブロワ間を接続し、車両P T Oの動力をブロワに伝達するベルトです。作業時は常に回転しています。運転中は、回転部には絶対に手を入れないでください。

Vベルトは伸びます。伸びたまま使用すると、スリップ（ブロワへの動力伝達が不十分になり能力が発揮できない）の発生や、周辺機器に干渉し、摩耗や破損の原因となります。定期的に張力管理を行ってください。

（操作説明 [Vベルト張力管理表] P. 3-1-1 参照）

# フローシート

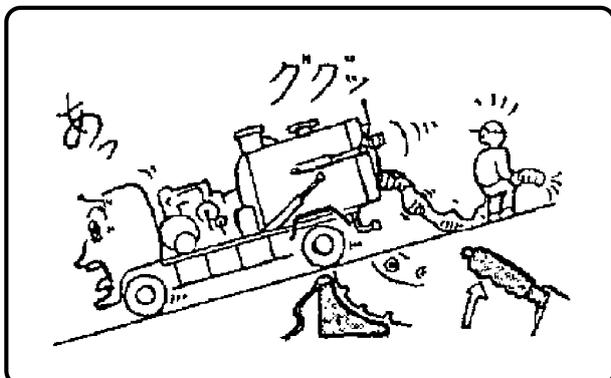


\*切換弁の開閉状態は、吸引状態を示す

\*小型車の4次接続はオプション

⚠ 警告

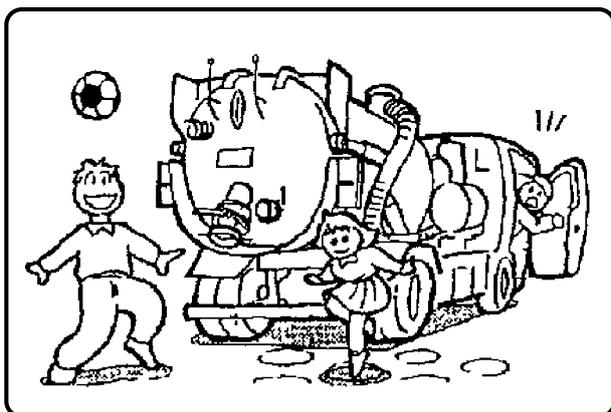
駐車ブレーキは確実にかけてください。



- ・坂道駐車はしないでください。
  - ・駐車ブレーキをしっかりとかけてください。
  - ・車輪に歯止めを完全にセットしてください。
- ※車体の振動や思わぬ荷重で、車が動き出します。

⚠ 警告

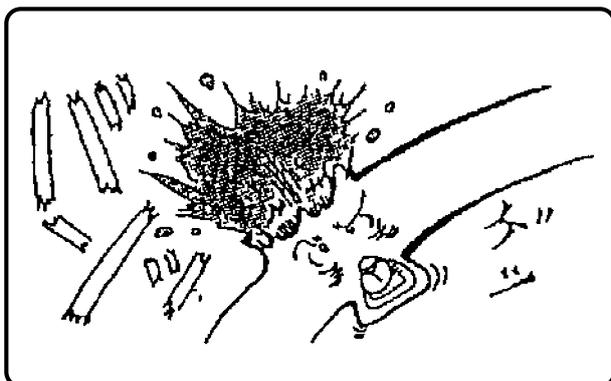
作業前に周囲の確認をしてください。



- ・作業前には周囲の安全確認を十分に行ってください。

⚠ 警告

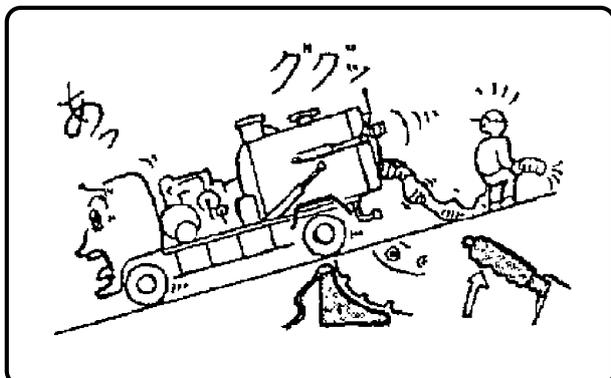
ホースの点検をしてください。



- ・ホース表面の摩耗・傷・変形及び劣化がないか、点検してください。
- ※異常があった場合は、新しいホースに交換してください。
- ※ホースは、十分圧力に耐えられるものをご使用ください。

⚠ 警告

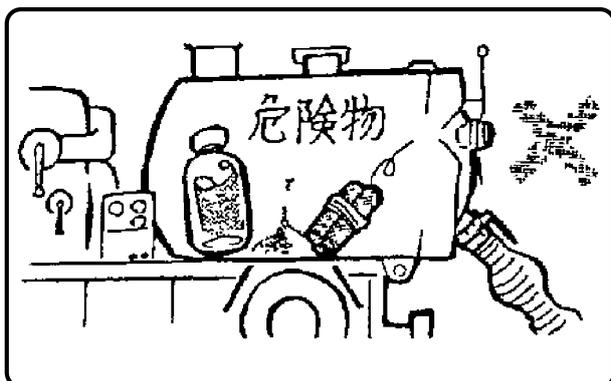
傾斜運転は行わないでください。



- ・坂道駐車や路肩等へ乗り上げて駐車しての傾斜運転は、絶対に行わないでください。
- ※オイル類や冷却水が規定値まで入っていても、十分な役割を果たせず故障の原因となります。

⚠ 危険

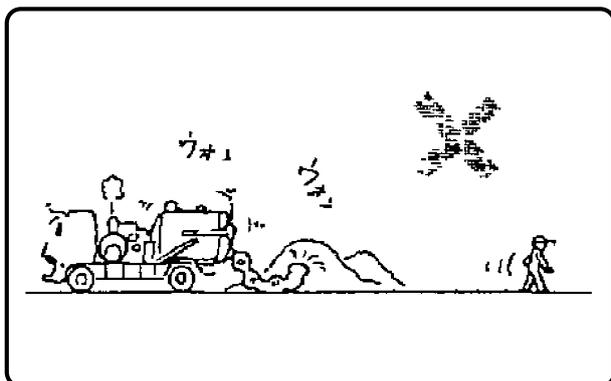
タンク内に危険物を入れないでください。



- ・爆発物・劇薬類及び危険物は絶対タンクに入れないでください。

⚠ 警告

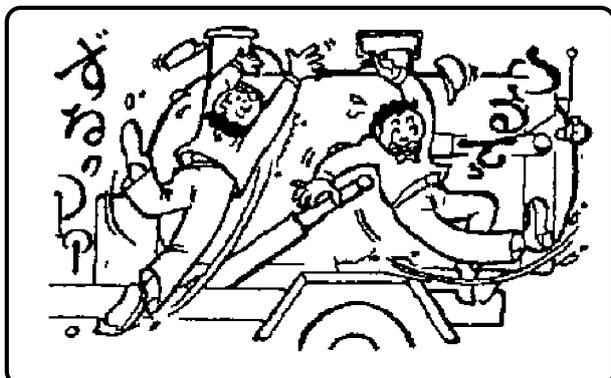
作業中は車から離れないでください。



- ・運転操作者（オペレータ）は作業中車から離れないでください。

⚠ 警告

作業中は車上に上がらないでください。



- ・車上はすべり易く、転落防止の為、点検及び清掃作業以外で車上には上がらないでください。

⚠ 警告

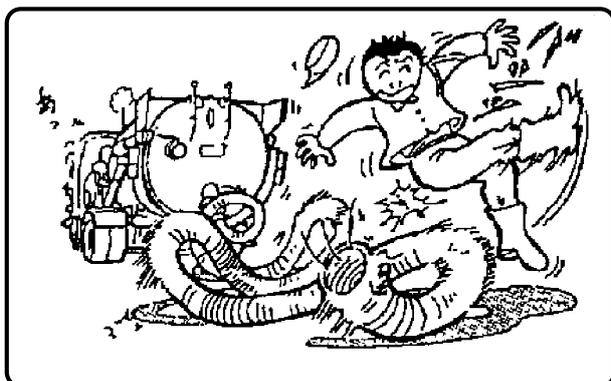
高温部に触れないでください。



- ・排気管やマフラーに触れないでください。
- ・排気管やマフラー付近に可燃物を置かないでください。

⚠ 警告

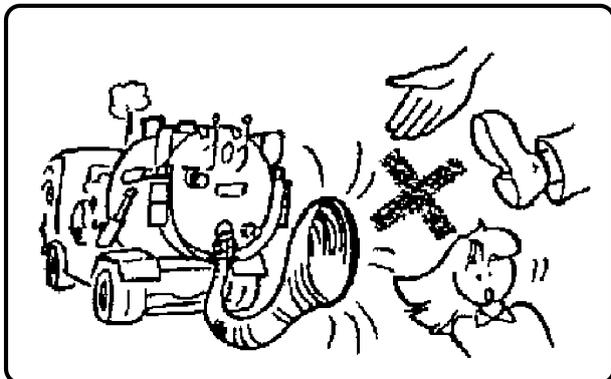
作業中のホースのあばれに注意してください。



- ・作業中ホースが暴れる事があります。周囲の安全を確認してください。
- ・作業中ホースが暴れないように、ホース及びジョイント類を固定する処置をしてください。

⚠ 警告

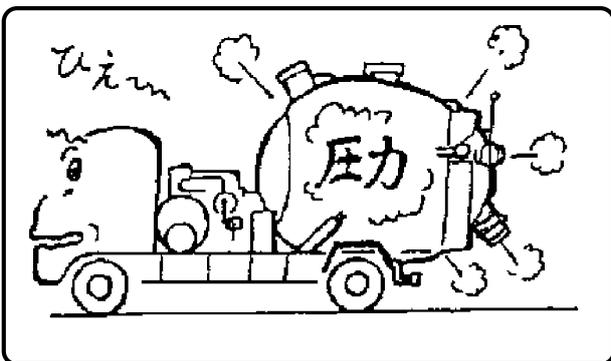
吸引中は吸引口に手足を近づけないでください。



- ・吸引口を、人や吸引物以外のものに向けたりしないでください。  
また、作業者以外が吸引口に近づかないでください。

⚠ 警告

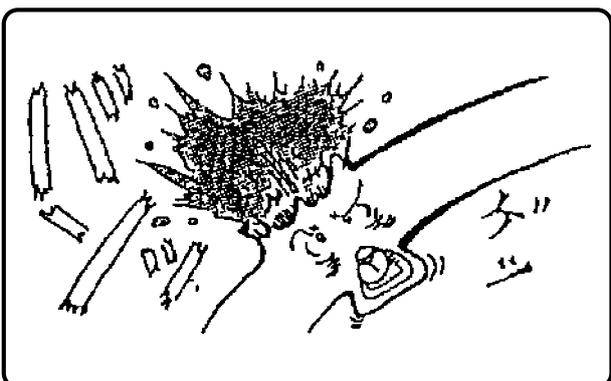
圧送作業前に、レーザーハッチ及び点検口等の点検をしてください。



- ・レーザーハッチ及び点検口は、しっかりと締め付けてください。
- ・ホース接続部がしっかりと締まっているか、点検してください。

⚠ 警告

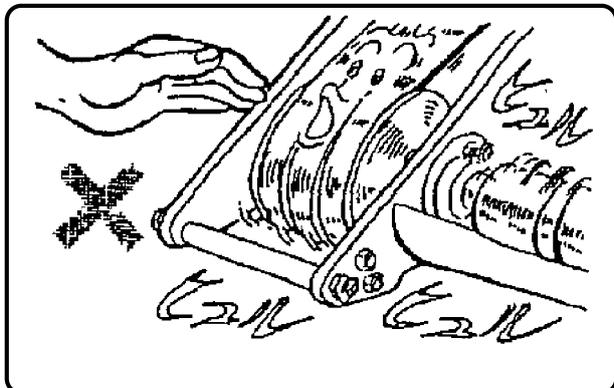
圧送作業前にホースの点検をしてください。



- ・ホース表面の摩耗・傷・変形及び劣化がないか、点検してください。  
※異常があった場合は、新しいホースに交換してください。
- ※ホースは、十分圧力に耐えられるものをご使用ください。

⚠ 警告

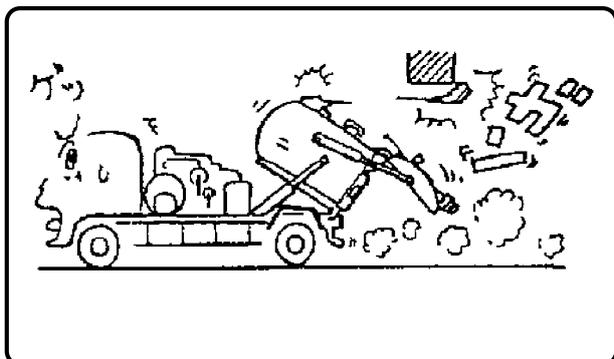
回転物に手を近づけないでください。



- ・運転中、ブロワ・軸受及びユニバーサルジョイント等、回転部に絶対手を近づけないでください。

⚠ 警告

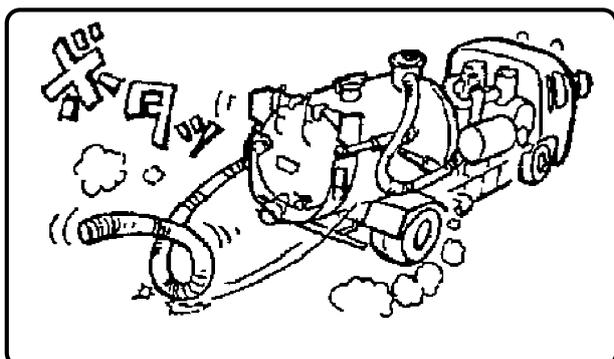
ダンプアップ及びレシーバーハッチ開放のままでは走行しないでください。



- ・レシーバータンクは下げてください。
- ・レシーバーハッチは閉じ、完全にロックしてください。
- ・点検口はしっかりと締めてください。

⚠ 警告

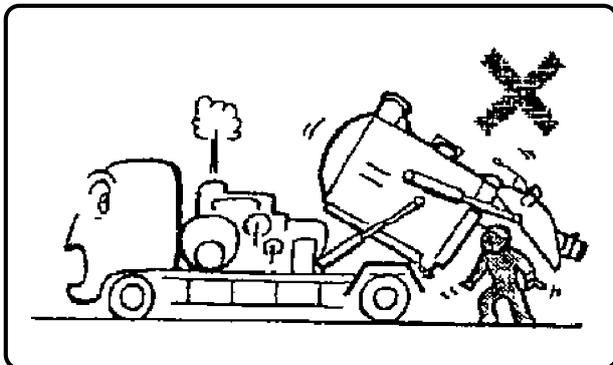
走行時ホース及びジョイント類は、しっかりと固定してください。



- ・吸引ホース及びジョイント類は、走行中の脱落防止の為に、しっかりと固定してください。

⚠ 警告

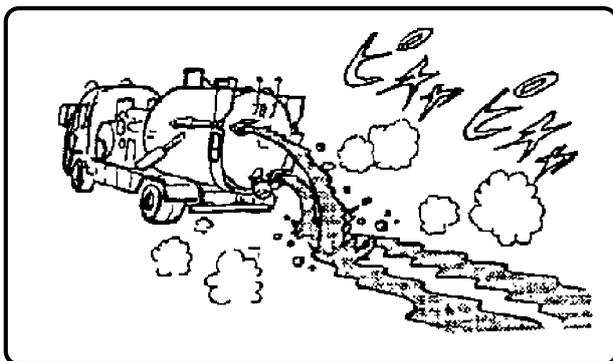
油圧作業は確実に行ってください。



- 作業範囲に入らないよう、作業前に周囲の安全を確認してください。
- 操作銘板の内容に従って操作してください。
- ※誤操作を絶対しないでください。

⚠ 注意

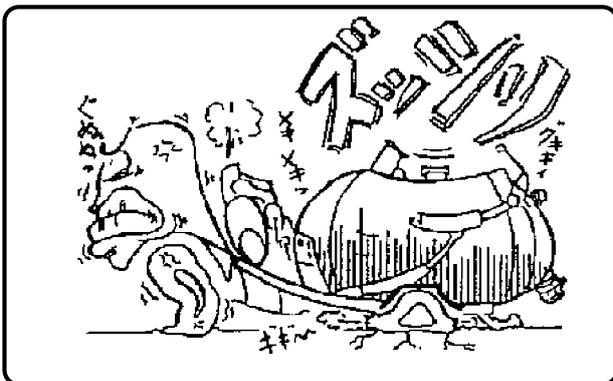
走行時吸引及び排出バルブは閉め、ハッチロックは完全にかけてください。



- 吸引バルブ及び排出バルブは、閉めた状態で走行してください。
- 走行するときには、必ずハッチロックをかけてください。

⚠ 注意

過積載をしないでください。



- 過積載は法律で禁じられています。

⚠ 注意

吸引作業及び圧送作業はレシーバータンクを完全に下げた状態で行ってください。

- ・ダンプアップしての吸引作業及び圧送作業は行わないでください。ダンプ軸やフレームなどの損傷につながります。  
※例外の機種もあります。操作説明を確認してください。

# 安全の為に必ず守ってください。 [作業時]

## ■ レシーバーハッチ挟まれ防止安全装置の取扱いについて

本装置は、ハッチ後方の作業者がレシーバーハッチ開閉作動時に気づかずに、挟まれたり、転倒したりする事故を防止することを目的としています。装置構成は、

- ①ハッチ後方作業者が意図しないハッチ開閉操作防止の為、油圧ストップバルブ取付
- ②ハッチ後方作業者に注意を促す為、ハッチレバー操作時の警報鳴動 となっています。

### 【レシーバーハッチ挟まれ防止安全装置について】

#### ①油圧ストップバルブ

1. タンク内の清掃作業等、ハッチ後方でハッチ開閉作動を伴う作業を行う場合は、油圧ストップバルブを『全閉』にして油圧回路を遮断してください。ハッチレバーを操作してもハッチ開閉作動ができなくなります。
2. ハッチ後方での作業終了後はストップバルブを『全開』にしてください。油圧回路が接続され、ハッチレバーでハッチ開閉操作が可能になります。



#### ②ハッチレバー操作時の警報鳴動（ブザーまたは音声アラーム）

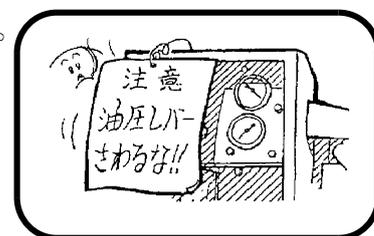
##### ハッチ開閉警報解除スイッチ付の場合、

1. 操作盤のハッチ開閉警報解除スイッチは、基本的に常時『OFF』で使用してください。ハッチレバー操作時に車両後方で警報が鳴り、操作者以外の人に注意を促します。（操作途中でハッチレバー操作を止めれば、警報も停止します。）
2. 夜間等ではむをえない理由で警報を消音したい場合は、操作盤のハッチ開閉警報解除スイッチを『ON』にしてください。ハッチ開閉警報解除中ランプが点灯し、ハッチレバーを操作しても警報は鳴らなくなります。後方に注意しながら作業を行ってください。

⚠ 警告 1. レシーバーハッチ挟まれ防止安全装置を取付していますが、ハッチ開閉操作は、作業範囲に人が入らないよう、作業前に周囲の安全を確実に確認して行ってください。

⚠ 警告 2. レシーバーハッチ挟まれ防止ストップバルブを作動させる場合は、必ず『全閉』で使用してください。  
※『全閉』でないとハッチが作動してしまいます。

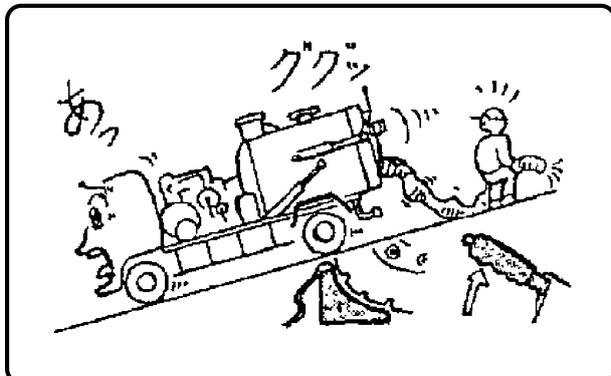
⚠ 警告 3. 作業中、油圧レバーを勝手に触らないよう対策を施してください。  
(例) 看板を立てる等



# 安全の為に必ず守ってください。 [点検・清掃時]

⚠ 警告

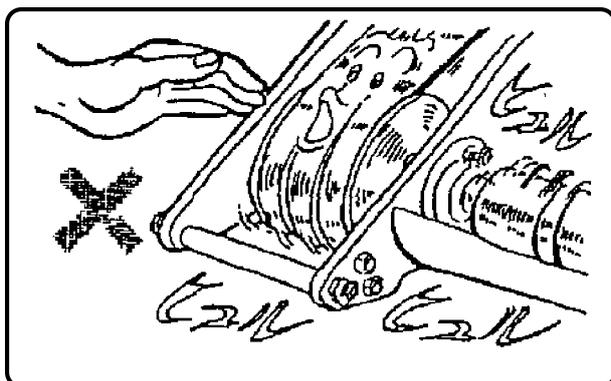
駐車ブレーキは確実にかけてください。



- ・坂道駐車はしないでください。
- ・駐車ブレーキをしっかりとかけてください。
- ・車輪に歯止めを完全にセットしてください。  
※車体の振動や思わぬ荷重で車が動き出します。

⚠ 警告

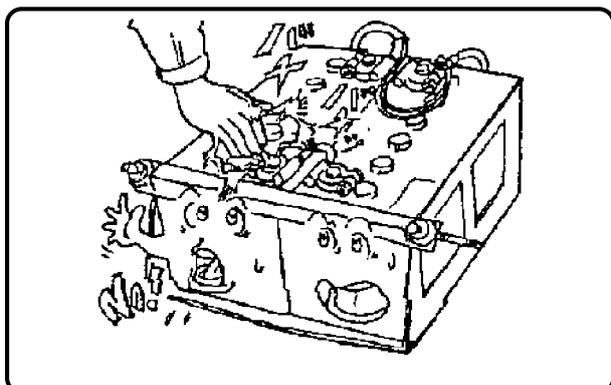
回転物に手を近づけないでください。



- ・運転中、ブロワ・軸受及びユニバーサルジョイント等、回転部に絶対手を近づけないでください。

⚠ 警告

電源に触れないでください。

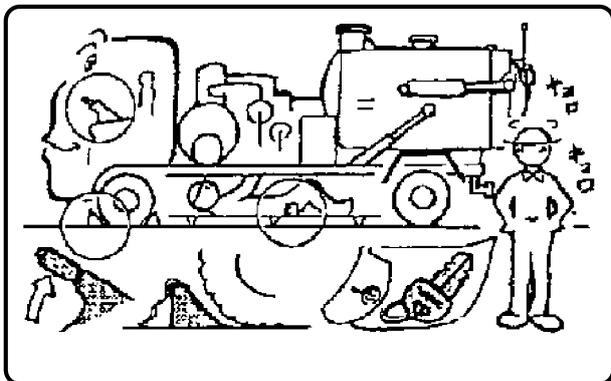


- ・バッテリーには直接触れないでください。
- ・電装品の間違った取付はやめてください。火災や故障など事故の原因となります。

# 安全の為に必ず守ってください。 [点検・清掃時]

## ⚠ 警告

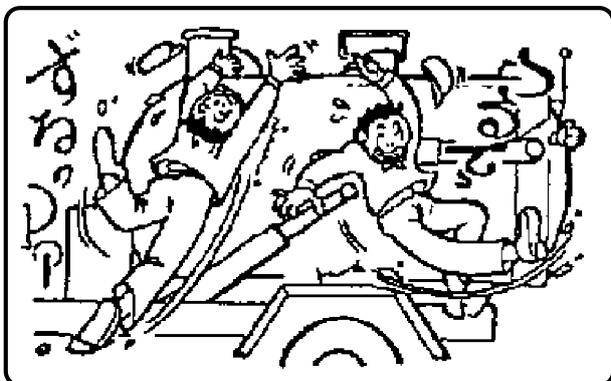
シャシ下での点検時は、安全確保をしてください。



- ・ 駐車ブレーキは確実にかけてください。（P. 2-3-1 参照）
- ・ エンジンは必ず停止してください。
- ・ 作業中勝手にエンジンを始動させないように、処置を施してください。（例）エンジンキーを作業者自身が持つ等
- ・ 周囲の安全を確認してください。  
※必要に応じ、監視人をつけてください。

## ⚠ 警告

タンク上及びフェンダー上は滑り易くなっています。転落に注意してください。

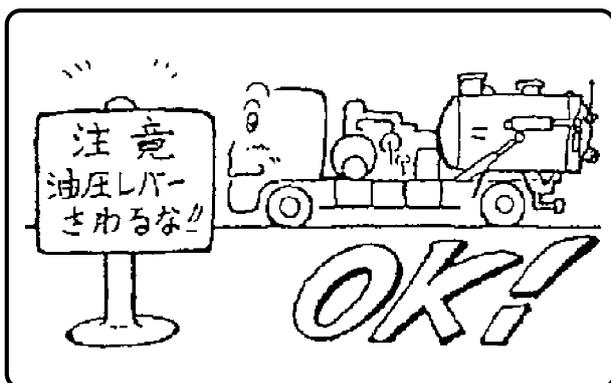
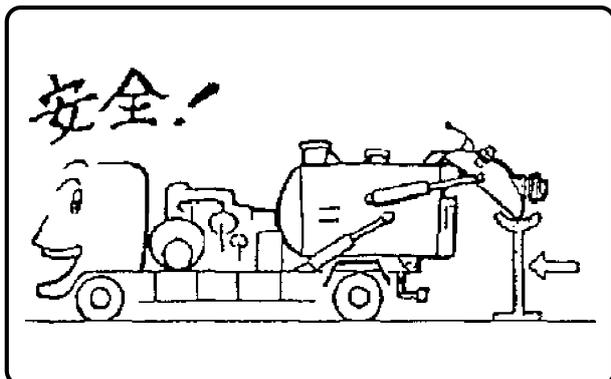


- ・ ゴム底の靴をはいてください。
- ・ 必ずステップをご利用ください。
- ・ フェンダー及びタンク上が水・油等でぬれているときは、ウエス等で十分にふき取ってください。
- ・ フェンダー及びタンク上で、重量物の持ち運びはやめてください。

# 安全の為に必ず守ってください。 [点検・清掃時]

## ⚠ 警告

レシーバータンクの点検・清掃を行うときは、安全確保の為に、必ず下記の事項を守ってください。

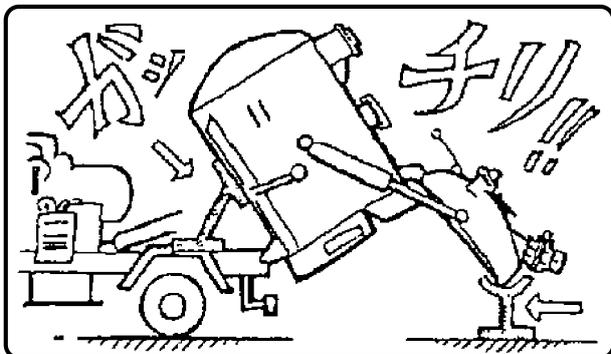


- ・ 駐車ブレーキは確実にかけてください。(P. 2-3-1 参照)
- ・ エンジンは必ず停止してください。
- ・ 作業中勝手にエンジンを始動させないように、処置を施してください。(例) エンジンキーを作業者自身が持つ等
- ・ 点検口は、タンク内に残圧がないことを確認した後で開けてください。
- ・ タンク内の換気を十分に行ってください。
- ・ レシーバーハッチを開放後、ハッチが勝手に閉じないように、安全棒等でロックしてください。
- ・ 作業中油圧レバーを勝手に触らないように、対策を施してください。(例) 看板を立てる等
- ・ フェンダー及びタンク上での作業は、転落に十分気をつけてください。(P. 2-3-2 参照)

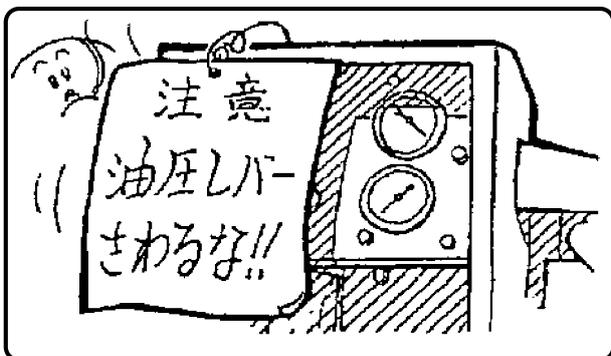
## 安全の為に必ず守ってください。 [点検・清掃時]

⚠ 警告

ダンプアップして点検する場合は、安全確保の為に、必ず下記の事項を守ってください。



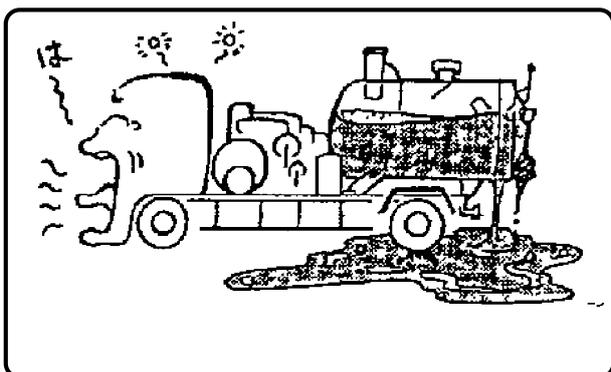
- ・レシーバータンク内を空の状態にしてください。
- ・駐車ブレーキは確実にかけてください。（P. 2-3-1 参照）
- ・レシーバータンク及びレシーバーハッチの落下防止の為に、安全棒等でロックしてください。
- ・作業中油圧レバーを勝手に触らないよう、対策を施してください。（例）看板を立てる等



## 安全の為に必ず守ってください。 [保管時]

⚠ 注意

長時間タンク内に物を入れたままにしないでください。



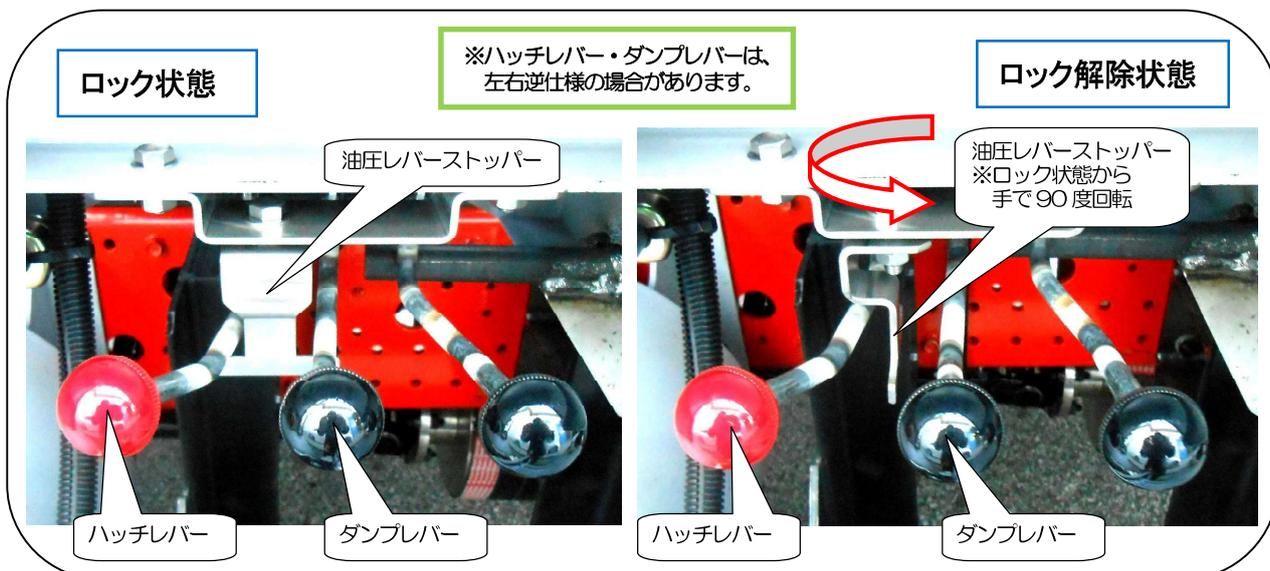
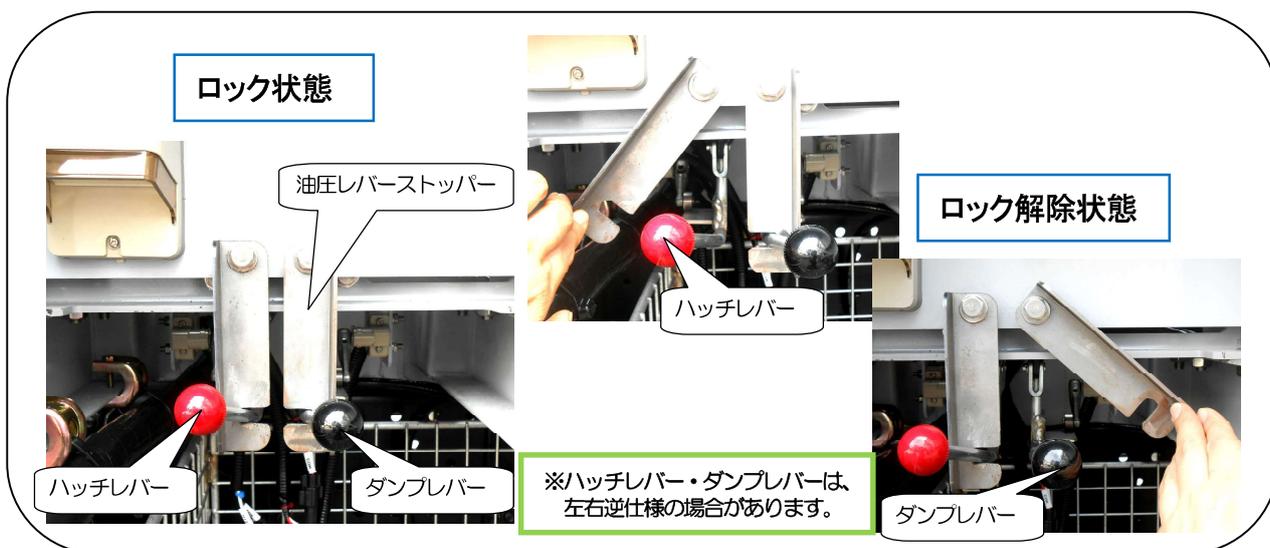
- ・長時間レシーバータンク内に物を放置すると、漏れるおそれがあります。

# 安全の為に必ず守ってください。 [点検・整備時]

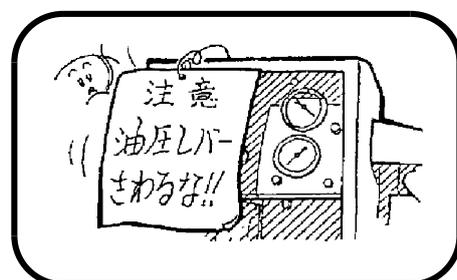
## ■ 油圧レバーストッパーの取扱いについて

油圧レバーストッパーは、操作盤の油圧レバーの誤操作による動作方向の間違いを防止するものではなく、操作方法について十分な知識を有した作業者が実施することを前提に、レシーバータンクまたはレシーバーハッチ等油圧機構の不意の作動を防止することを目的としています。レシーバータンク下に入る時、レシーバータンク内や開放したレシーバーハッチ下に入る時は、必ず下記に従って油圧レバーストッパーをロック状態にしてください。

点検・整備時には、操作盤の油圧レバーストッパーをロック状態にしてください。



- ⚠ 警告 1. 作業中、油圧レバーを勝手に触らないよう対策を施してください。  
(例) 看板を立てる等

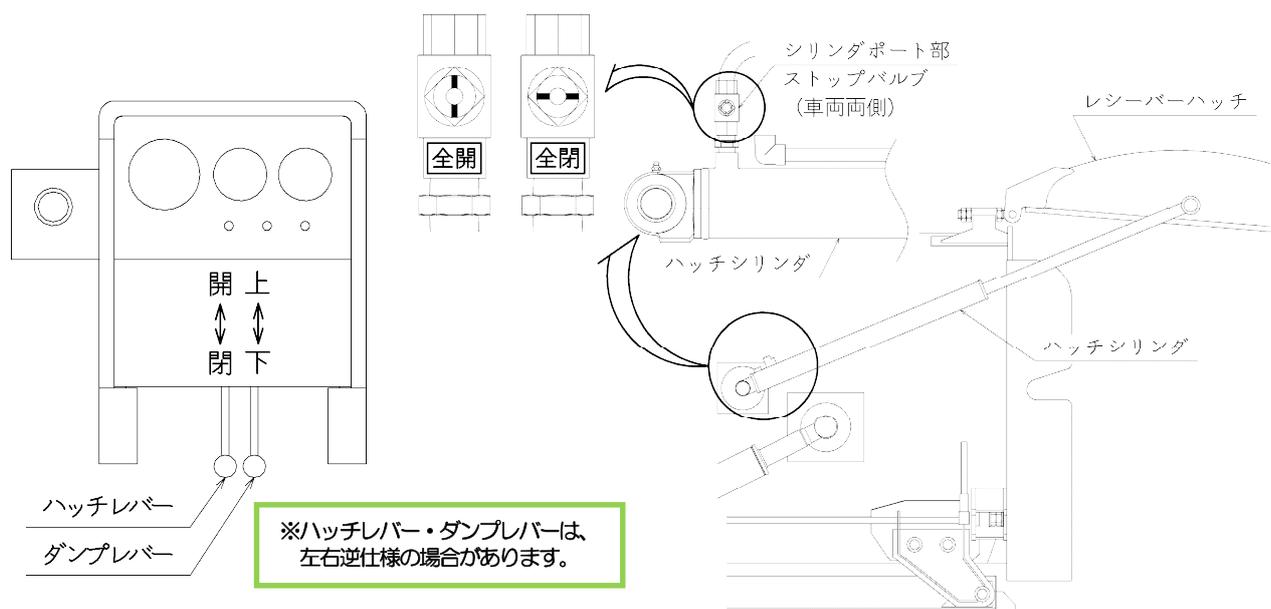


# 安全の為に必ず守ってください。 [点検・整備時]

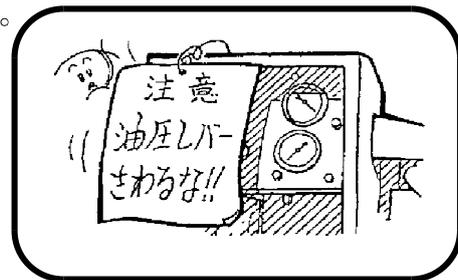
## ■ ハッチ降下防止装置の取扱いについて

ハッチ降下防止装置は、油圧回路が損傷した際の不意の油漏れ等によるレシーバーハッチの自重降下を防止し、レシーバータンク内またはレシーバーハッチ周辺での点検・整備作業の安全性を確保することを目的としています。レシーバータンク内や開放したレシーバーハッチ下に入る時は、必ず下記に従ってハッチ降下防止装置を作動させてください。

1. 操作盤のハッチレバーを上げ、レシーバーハッチを任意の位置まで開いてください。
2. ハッチシリンダポート部に取り付けてあるストップバルブを工具を使用して『全閉』にしてください。  
※ストップバルブは、車両両側のハッチシリンダに取り付けてあります。  
必ず、『両側』のストップバルブを『全閉』にしてください。  
※『両側』ともに『全閉』でないと、レシーバーハッチ等を破損するおそれがあります。
3. レシーバーハッチを開閉する際には、車両『両側』のストップバルブを『全開』にしてから、ハッチレバーを操作してください。  
※『両側』ともに『全開』でないと、レシーバーハッチ等を破損するおそれがあります。



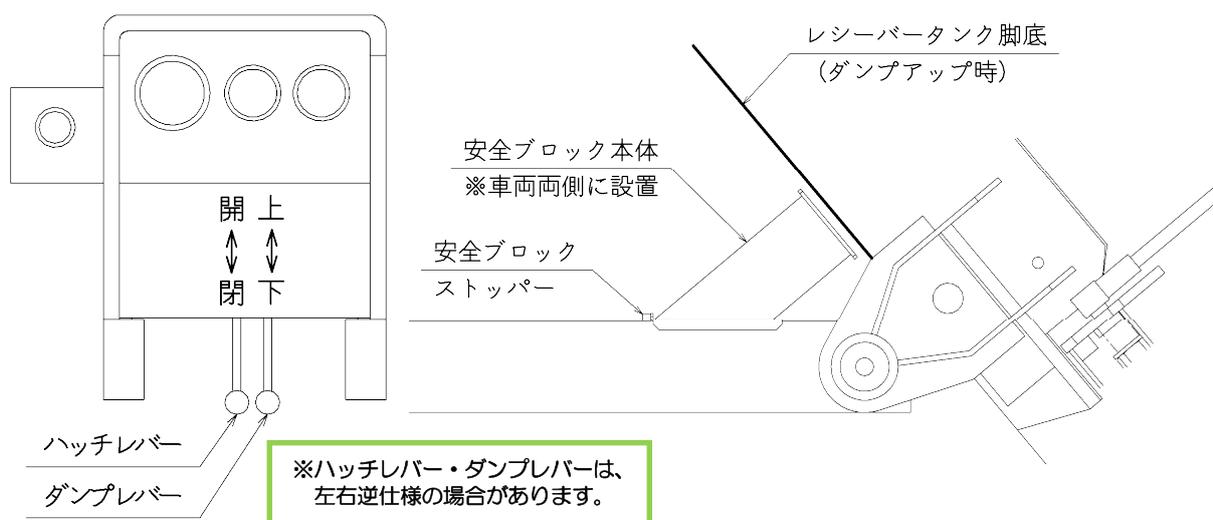
- ⚠ 警告 1. レシーバーハッチを閉じる際には、レシーバーハッチの可動範囲内に人や物が残っていないか、必ず確認してください。
- ⚠ 警告 2. 作業中、油圧レバーを勝手に触らないよう対策を施してください。  
(例) 看板を立てる等
- ⚠ 注意 3. レシーバーハッチを開閉する際には、車両『両側』のストップバルブが『全開』になっていることを確認してください。  
※『両側』ともに『全開』でないと、レシーバーハッチ等を破損するおそれがあります。



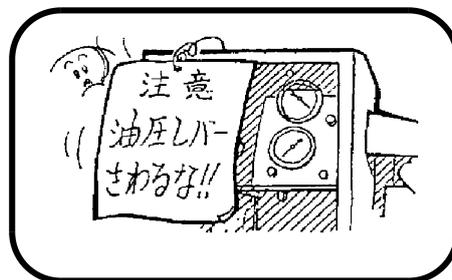
## ■ タンク降下防止装置の取扱いについて

タンク降下防止装置は、レシーバータンク底部またはシャシフレーム周辺を点検・整備する際の不意の油漏れ等によるタンクの自重降下を防止し、安全な作業スペースを確保することを目的としています。レシーバータンク下に入って点検・整備をする場合は、必ず下記に従ってタンク降下防止装置を作動させてください。

1. レシーバータンク内を空の状態にしてください。
2. 操作盤のダンプレバーを上げ、安全ブロックが取り付けできる角度まで、レシーバータンクをダンプアップしてください。
3. レシーバータンク脚底とサブフレームの間の車両両側に、安全ブロック本体を下図の向きに設置してください。  
※安全ブロック本体底面先端がサブフレーム上の安全ブロックストッパーに突き当たるように設置してください。



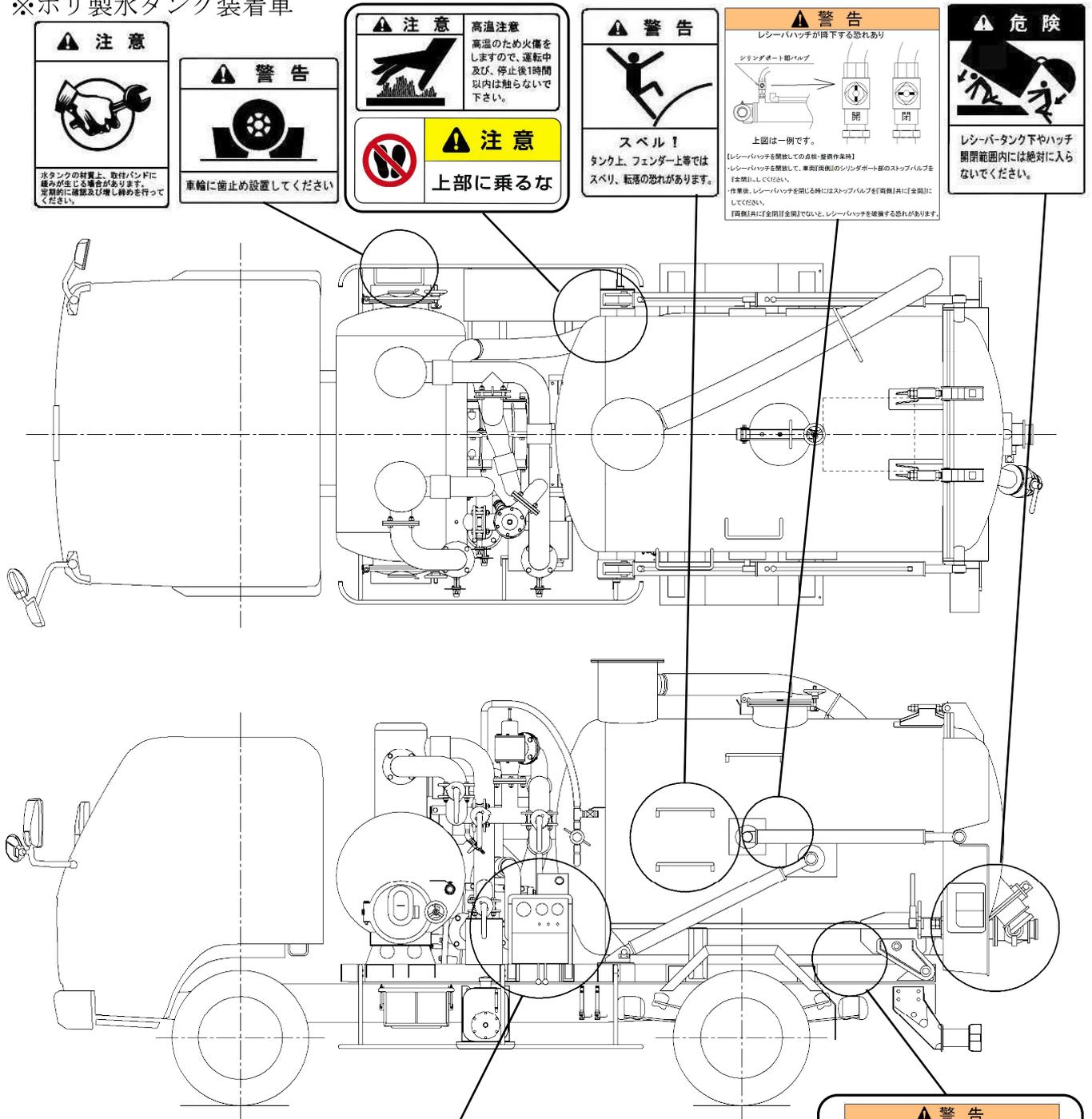
- ⚠ 注意 1. レシーバータンクを降下させる前に、安全ブロックが外れていることを確認してください。  
※安全ブロックを取り外さずに降下させると、レシーバータンク等を破損するおそれがあります。
- ⚠ 警告 2. 安全ブロックを外す際には、レシーバータンク下に人や物が残っていないか、必ず確認してください。
- ⚠ 警告 3. 作業中、油圧レバーを勝手に触らないよう対策を施してください。  
(例) 看板を立てる等





# コーションプレート取付位置図

※ポリ製水タンク装着車



**注意**

- 1 ブロウ冷却水不足
- 2 ブロウオイル不足
- 3 満量運転
- 4 傾斜運転

**注意**

PTOによる作業終了後は必ずスロットルを完全に戻してください

**注意**

上図は一例です。(ロック状態を示す。)

・点検・整備作業を行う場合は、必ず取扱説明書をお読みください。  
 ・運転前には、必ず点検や整備をしてください。  
 ・操作は、操作手順を確認したうえで行ってください。  
 ・点検や整備をするときは、必ず平坦な場所に止め、駐車ブレーキ・車輪に止めめをし、なにかつエンジンキーを作業着自身が持た。安全を確認したうえで操作を行ってください。

**警告**

**回転部 注意!**

運転中はブロー等他の回転部には絶対に指を入れないでください。

**注意**

電気・電子部品に直接水をかけないでください。故障の原因となります。

**危険**

**タンク・後部扉の降下操作時注意**

タンク(レシーバホッチ)・後部扉(ハッチゲートドア)を降下する際は、タンク・後部扉の下部に人が居ないことを必ず確認してください。タンクや後部扉の間に人がはさまれ、ケガをする恐れがあります。

**危険**

**危険物の吸引禁止**

危険物(劇薬物・毒薬物・爆発物・発酵物など)はタンク(レシーバホッチ)内に絶対入れないでください。タンク内にガスが発生し爆発する恐れがあります。タンクの腐食により漏れ出す恐れがあります。



**警告**

レシーバタンクが降下する恐れあり

上図は一例です。(ハッチ状態を示す。)

【レシーバタンクを上げる時の点検・整備作業時】  
 ・レシーバタンクを空の状態にしてください。  
 ・レシーバタンクを上げて、安全ブロック等のタンク降下防止装置を車両両側にセットしてください。  
 ・作業後、レシーバタンクを降下する時はタンク降下防止装置を解除してください。  
 ・降下せよに降下すると、レシーバタンクを破壊する恐れがあります。

**警告**

レシーバハッチに挟まれる恐れあり

上図は一例です。

【レシーバハッチ挟まれ防止安全装置】  
 ・タンク内の清掃作業時、ハッチ周辺でハッチの作動を伴う作業を行う場合は、挟まれ事故を防止するために、ストップバルブを「全開」にして油圧回路を遮断してください。  
 ・作業後はバルブを「全閉」に戻してください。

# 操 作 説 明 [作業回転数一覧表]

下記の回転範囲で作業を行ってください。(BT125AV)

MP-03BVP				
シャシ		作業回転数 (rpm)		
メーカー	型 式	吸 引	排 出	圧 送
HINO	2PG-XZU640F-TKFSY6	1350～1550	1000～1200	1200～1400

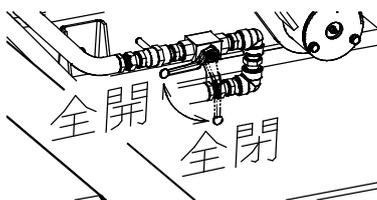
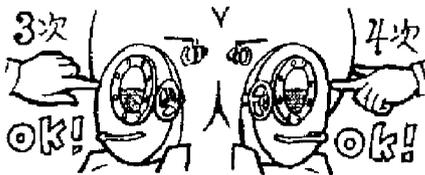
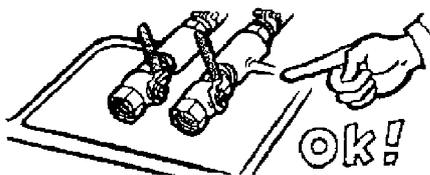
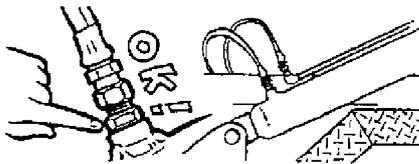
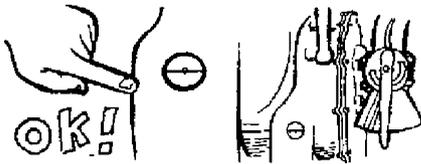
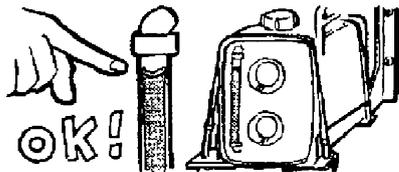
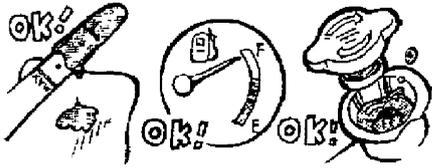
# 操 作 説 明 [Vベルト張力管理表]

	新品時	張り直し 1回目	張り直し 2回目以降	たわみ $\delta$
ベルト張り荷重 F	59 N (6.0 kgf)	58 N (5.9 kgf)	58 N (5.9 kgf)	11.4 mm

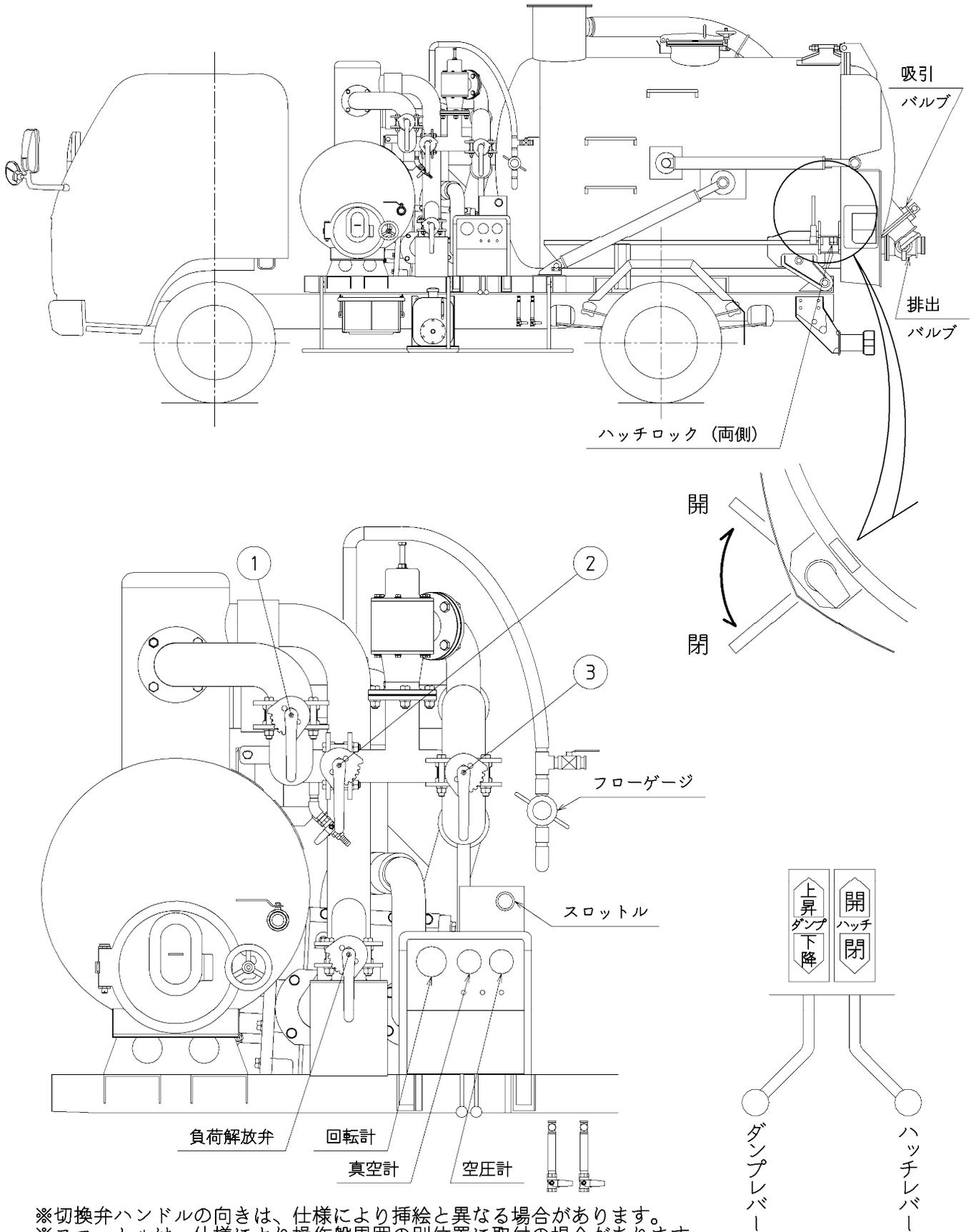
※本表の張り荷重はVベルト1本当たり

- ・作業を始める前には下記事項を必ず確認したうえで、一度は試運転を行い、異音等がないか確認してください。

## ■ 始業点検

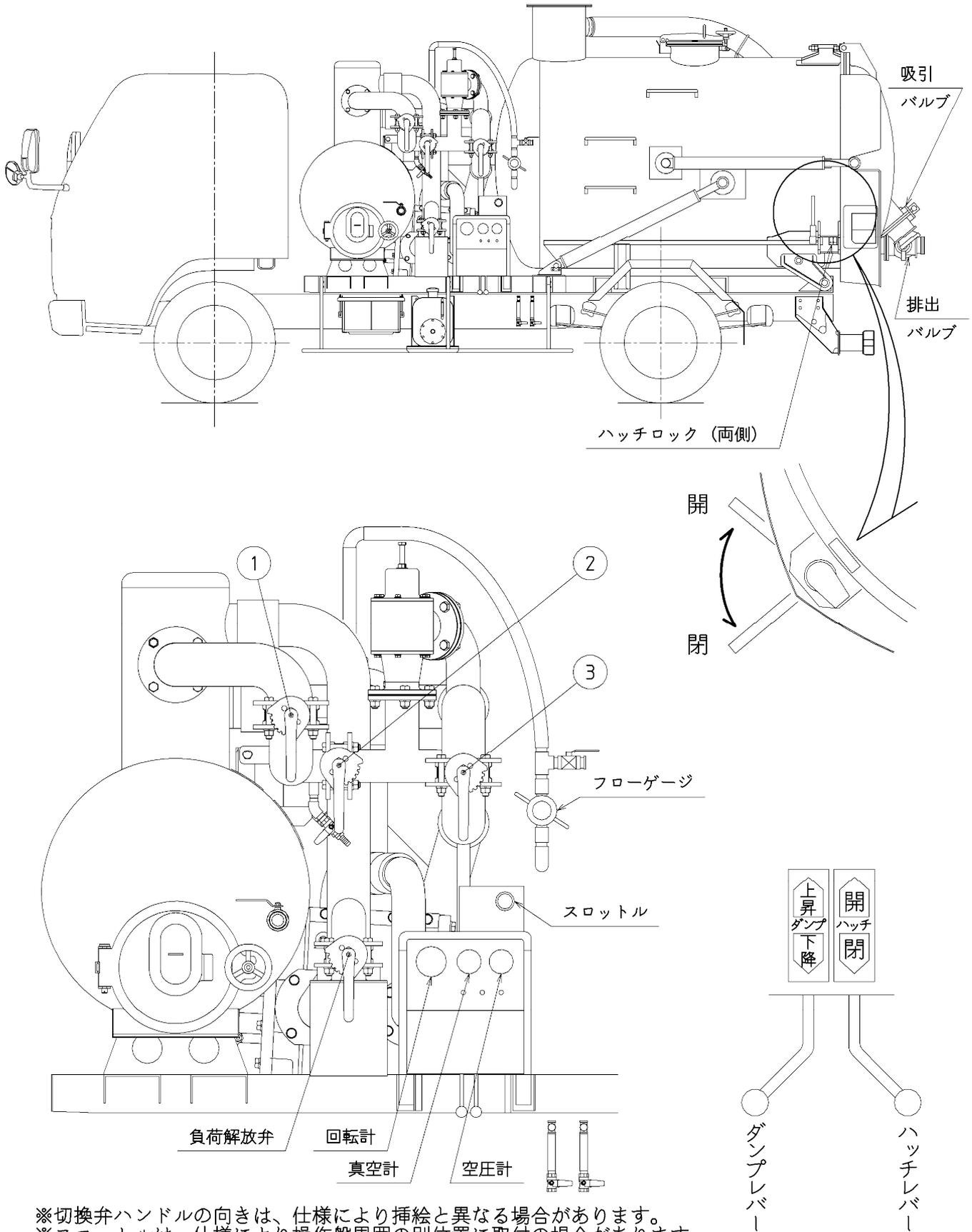


1. シヤシに関する始業点検については自動車メーカーの取扱説明書をお読みください。
2. 作動油の油量、汚れはないか。
3. ブロワオイル量、汚れはないか。
4. **△ 注意**  
油圧機器・配管等の油漏れ、及び燃料系の漏れはないか。
5. Vベルトの張りはよいか。  
(保守・点検 [Vベルトの張り方]  
P. 4-2-1 参照)
6. 各ドレンバルブは『閉』になっているか。
7. 3次・4次キャッチャーの水量はよいか。
8. レシーバーハッチ挟まれ防止安全装置の作動確認。
  - ①レシーバーハッチ挟まれ防止安全装置の油圧ストップバルブを『全閉』にして油圧操作レバーでハッチが動かない事を確認。  
※ハッチ操作は、操作説明 [排出時] を参照ください。
  - ②確認後、バルブを『全開』に戻す。



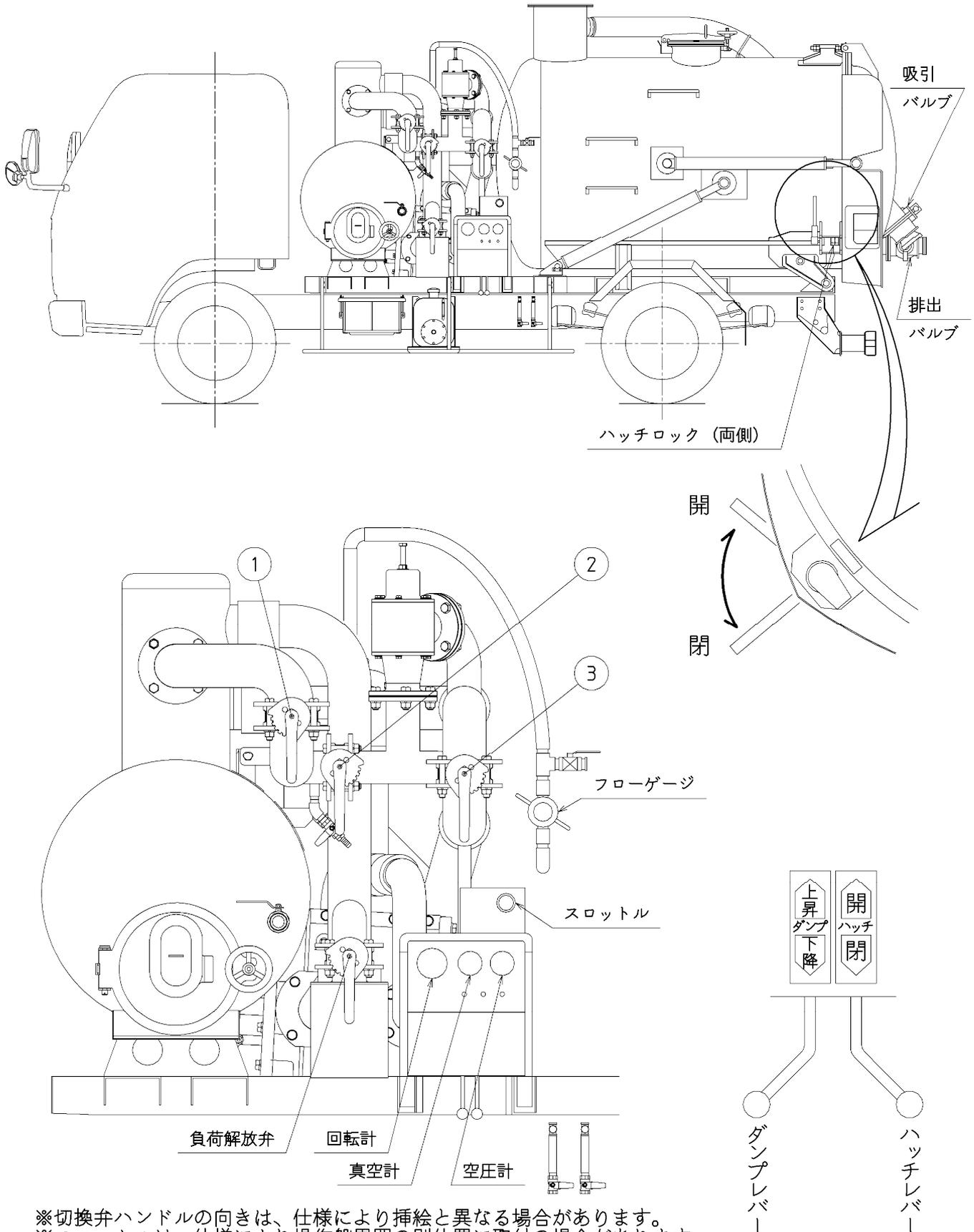
※切換弁ハンドルの向きは、仕様により挿絵と異なる場合があります。  
 ※スロットルは、仕様により操作盤周囲の別位置に取付の場合があります。

操 作 手 順	
始 業 前 操 作	① 負荷解放弁を『開』にしてください。 ② 切換弁①②③を『吸引』にしてください。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャビン内操作</span> ③ エンジンを始動し暖機運転を行った後、クラッチを踏んでP T Oを入れ、ゆっくりクラッチをつないでください。
作 業 時	④ ハッチロックをかけてください。 ⑤ 車外操作盤のスロットルで、エンジン回転を所定の回転数（P. 3 - 1 - 1 参照）に設定してください。 ⑥ レシーバータンクの吸引バルブを『開』にしてください。 ⑦ 負荷解放弁を『閉』にしてください。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一時停止</span> 負荷解放弁をゆっくりと『開』にしてください。
操 作	⑧ 負荷解放弁をゆっくりと『開』にしてください。 ⑨ 真空圧が-30kPa以下になるまで待って、スロットルでエンジン回転を完全に戻してください。 ⑩ レシーバータンクの吸引バルブを『閉』にしてください。 ⑪ クラッチを踏んで、P T Oを切ってください。
<h3>取扱上の注意</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運転中、3次、4次キャッチャーの水量は規定水位を保ってください。特に4次キャッチャーの水は、運転中蒸発し減ります。随時補充してください。</li> <li>2. ブロワ循環水が流れているか、フローゲージ又は冷却水循環ホースで確認してください。</li> <li>3. 吸引中、作業ホースの詰まり等異常が発生した時は、すぐに負荷解放弁を『開』にして、詰まり等の異常を解除してください。</li> <li>4. 走行する時には、必ずハッチロックをかけてください。</li> </ol> <p>⚠ 注意 5. 作業停止時は、真空圧が十分下がってから、エンジン回転を下げてください。真空圧が下がらないまま急激に回転を下げると、機器内部に残っている真空圧の影響で、ブロワが逆転する等、駆動部の故障の原因となります。必ず守ってください。</p> <p>⚠ 注意 6. P T Oによる作業終了時は、スロットルでエンジン回転を完全に戻してください。</p> <p>7. 排出バルブからの吸引は行わないでください。液面が暴れて車両が横揺れしたり、満量装置が正常に作動しない場合があります。</p>	



※切換弁ハンドルの向きは、仕様により挿絵と異なる場合があります。  
 ※スロットルは、仕様により操作盤周囲の別位置に取付の場合があります。

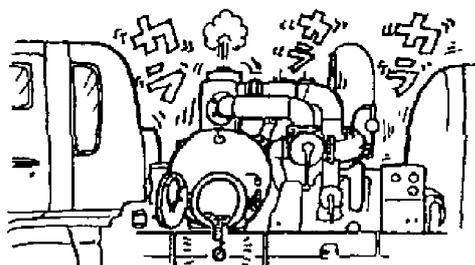
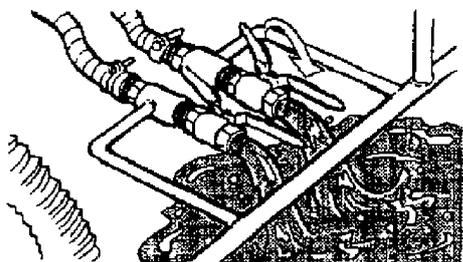
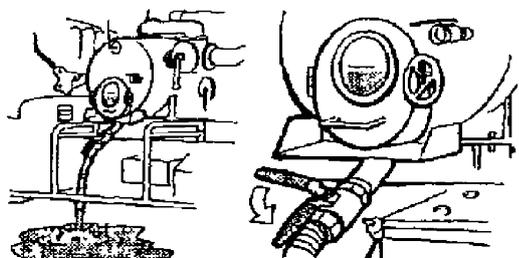
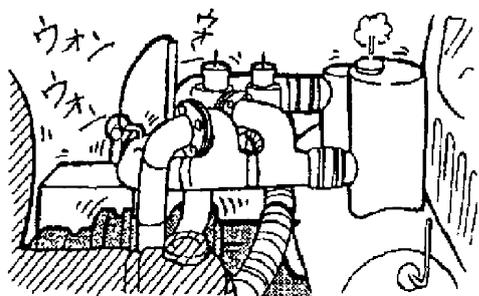
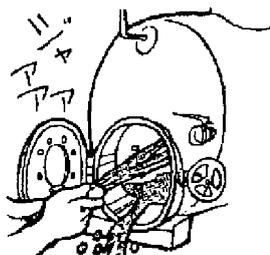
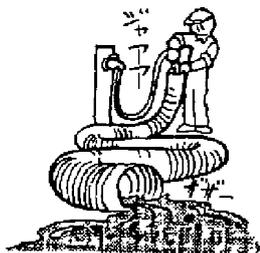
操 作 手 順	
始 業 前 操 作	① 負荷解放弁を『開』にしてください。 ② 切換弁①②③を『吸引』にしてください。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャビン内操作</span> ③ エンジンを始動し暖機運転を行った後、クラッチを踏んでPTOを入れ、ゆっくりクラッチをつないでください。
作 業 時	④ ハッチロックを解除してください。 ⑤ 車外操作盤のスロットルで、エンジン回転を所定の回転数（P. 3-1-1 参照）に設定してください。 ⑥ ハッチレバーを上げ、レシーバーハッチを全開にしてください。 ⑦ ダンプレバーを上げ、レシーバータンクを上げてください。
操 作	⑧ ダンプレバーを下げ、レシーバータンクを完全に下げてください。 ⑨ ハッチレバーを下げ、レシーバーハッチを完全に閉じてください。 ⑩ ハッチロックをかけてください。 ⑪ 車外操作盤のスロットルで、エンジン回転を完全に戻してください。 ⑫ クラッチを踏んで、PTOを切ってください。
<h3>取扱上の注意</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レシーバーハッチを全開にしてから、レシーバータンクを上げてください。</li> </ol> <p>⚠ 警告 2. レシーバーハッチの開閉、レシーバータンクの上げ下げは、周囲の安全を十分に確認して行ってください。</p> <p>⚠ 注意 3. レシーバータンク内の残留物を人手にて排出する場合、急に残留物が落ちる可能性があります。十分な注意を払ってください。</p> <p>⚠ 注意 4. PTOによる作業終了時は、スロットルでエンジン回転を完全に戻してください。</p>	



※切換弁ハンドルの向きは、仕様により挿絵と異なる場合があります。  
 ※スロットルは、仕様により操作盤周囲の別位置に取付の場合があります。

操 作 手 順	
始 業 前 操 作	① 負荷解放弁を『開』にしてください。 ② 切換弁①②③を『吸引』にしてください。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャビン内操作</span> ③ エンジンを始動し暖機運転を行った後、クラッチを踏んでP T Oを入れ、ゆっくりクラッチをつないでください。
作 業 時 操 作	④ ハッチロックが完全にかかっていることを確認してください。 ⚠ 警告 : レシーバーハッチ及び点検口はしっかりと締めてください。 ⚠ 警告 : ホースの状態及び接続部がしっかりと締まっているか点検してください。 ⑤ レシーバータンク後部の排出バルブを『開』にしてください。 ⑥ 車外操作盤のスロットルで、エンジン回転を所定の回転数（P. 3 - 1 - 1 参照）に設定してください。 ⑦ 切換弁を①②③の順にゆっくりと『圧送』にしてください。
作 業	⑧ 切換弁を③②①の順にゆっくりと『吸引』にしてください。 ⑨ 車外操作盤のスロットルで、エンジン回転を完全に戻してください。 ⑩ レシーバータンク後部の排出バルブを『閉』にしてください。 ⑪ クラッチを踏んで、P T Oを切ってください。
<h3>取扱上の注意</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 圧送作業は連続で15分間（少なくとも1時間毎）以上行わないでください。                          ※ ブロワの焼付事故の原因となります。</li> <li>2. 加圧時の切換弁操作は、ゆっくりと行ってください。</li> <li>3. 圧送中、負荷解放弁は絶対に『閉』にしないでください。</li> </ol> <p>⚠ 注意 4. 圧送中、排水ホースの詰まり等異常が発生した場合は、すみやかに切換弁を『吸引』側にし、タンク及び配管内の残圧がなくなった事を確認後、詰まり等の異常を解除してください。</p> <p>⚠ 注意 5. 作業停止時は、圧送圧が十分下がってから、エンジン回転を下げてください。圧送圧が下がらないまま急激に回転を下げると、機器内部に残っている圧送圧の影響で、ブロワが逆転する等、駆動部の故障の原因となります。必ず守ってください。</p> <p>⚠ 注意 6. P T Oによる作業終了時は、スロットルでエンジン回転を完全に戻してください。</p>	

## ■終業点検

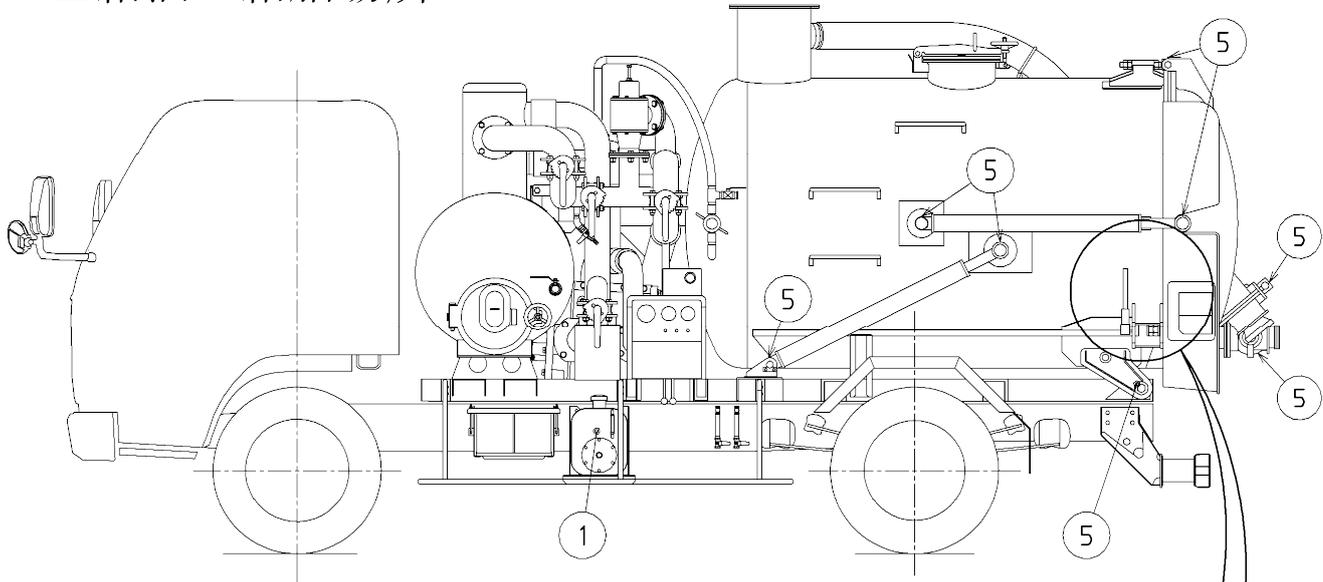


1. 作業ホースの洗浄を行ってください。
2. レシーバータンク、各キャッチャーの排水を行い、内部を清掃してください。
3. ブロワ内の洗浄
  - ① 4次キャッチャーに、清水を規定の水位まで入れてください。
  - ② 吸引操作を行い、真空圧が $-50\text{kPa}$ ～ $-60\text{kPa}$ となるように負荷解放弁を閉めて調整し、清水をブロワに循環させてください。  
(約10分)
  - ③ 4次キャッチャーの水を排水してください。
4. 各キャッチャーの水を排水してください。
5. 各ドレンバルブを開き、水抜きをしてください。
6. ブロワ循環水を抜いた後、ブロワを約5分間空運転してください。  
(ブロワ水切り)



保守・点検は必ず行ってください。また、定期的に当社技術サービス担当者、もしくは指定サービス工場にて点検を受けてください。

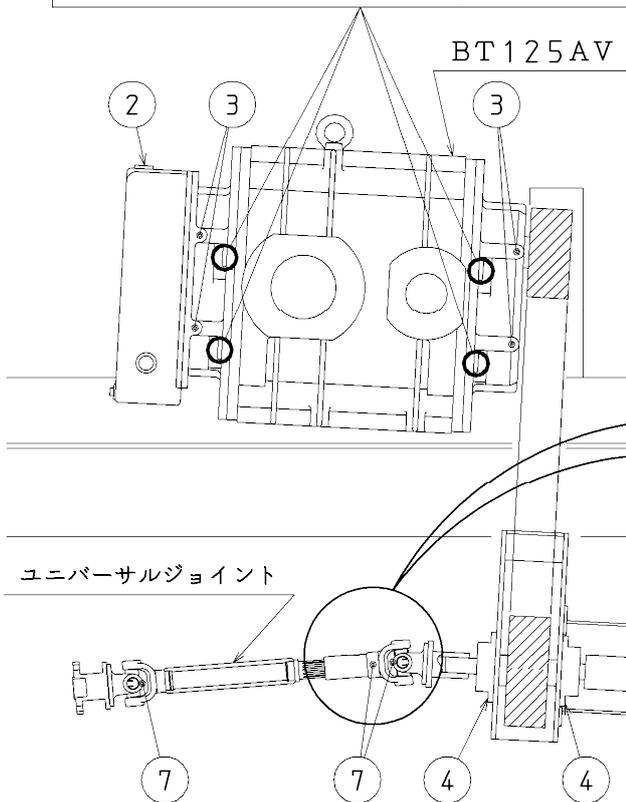
## ■給油・給脂場所



ハッチロック  
(両側)

注意) ブロワベアリンググリス給脂後、  
余分なグリス除去が必要です。  
ブロワ取扱説明書を参照ください。

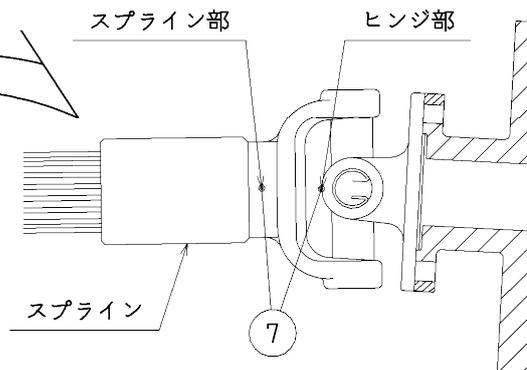
BT125AV



※ 3 4 は機側より  
集中給脂ができます。

スプライン部

ヒンジ部



※スプラインは車両前方側取付の場合があります。

## 給油・給脂表

※油脂の交換・補給の量、又、時期については下表を参考にしてください。

※油脂の種類については表記されたものを使用してください。

※オーバーフローしたオイル・グリスは、きれいにふき取ってください。

	①作動油	プロワ (アンレット製)		④軸受	⑤各ヒンジ ⑥ハッチロック ⑦ユニバーサル ジョイント	⑧等速ボール ジョイント	
		②オイル	③グリス ※5				
交換 ※3※4 補給時期	初回3ヵ月・300h 1年毎・1000h毎	6ヵ月毎 2000h毎	3ヵ月毎 1000h毎	1ヵ月毎 100h毎	1ヵ月毎 100h毎	2年毎 2400h毎	
交換 補給量	4ト以下:20 <sup>リットル</sup> 5~8ト:40 <sup>リットル</sup> 9ト以上:60 <sup>リットル</sup>	TM:1.4 <sup>リットル</sup> MP:1.8 <sup>リットル</sup> SM:2.4 <sup>リットル</sup> SP:5.5 <sup>リットル</sup> SQ:6.0 <sup>リットル</sup>	TM:8g/ヵ所 MP:11g/ヵ所 SM:13g/ヵ所 SP:30g/ヵ所 SQ:40g/ヵ所	グリスガン にて20回/ヵ所	グリスガン にて10回/ヵ所	本体内70g ブーツ及フランジ 空間部には容積の 約1/2 /ヵ所	
要領	交換	交換	給脂	給脂	給脂	交換	
区分	R&Oタイプ※1 油圧作動油 ISO VG 32	極圧型 ※2 ギヤー油 ISO VG 460	ころがり 軸受用汎用 グリス	ポリウレア系 耐熱用 グリス	ポリウレア系 耐熱用 グリス	ころがり 軸受用汎用 グリス	等速ボール ジョイント用 グリス
出荷時充填	テラス S2 M 32	オマラ S2 G 460 S2 GX 460	ANG3D		スタミナEPグリス2		※下参照
シェル ルブリカント	テラス S2 M 32	オマラ S2 G 460 S2 GX 460	アルパニヤ グリスS3 (スタミナEP グリス2 使用可)	スタミナ グリスRL1 スタミナEP グリス2	スタミナEP グリス2	アルパニヤ グリスS2 (スタミナEP グリス2 使用可)	
コスモ	オルパス32	ギヤーSE460	ダイナマックス No. 3			ダイナマックス No. 2	
ENEOS	ハイランド ACT32	ボンノック TS460	マルティノック グリス2	マルティノック ウレア		マルティノック グリス2	
出光	ダフニー ハイドロリック フルイド32	ダフニー スーパーギヤー オイル460	ダフニー エポネックス グリス NLGI No. 3			ダフニー エポネックス グリスNo. 2	
エクソン モービル	テレソン32 DTEオイルライト	モービルギヤ 600XP 460	モービリス SHC100			ビーコン2 リスタン2 モービラックス2	
協同油脂			シトラックス SP No. 3	マルテンブ ET-100K マルテンブ ET-C		シトラックス EP No. 2	<NTN製> NKG814
カストロール							<NKN製> モラブアロイ 777-ES2
アンレット				ANG3D			

- ※1. 沖縄地方ではISO VG 46を使用してください。 ※2. 冬期及び寒冷地ではISO VG 220~320を使用してください。  
 ※3. 使用期間と運転時間を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給油または給脂をしてください。  
 ※4. 交換・補給時期は推奨期間を示します。使用する環境状態によっては、給油・給脂時期の短縮も必要です。  
 ※5. SQ及び高温場所での作業や高負荷連続運転等により、プロワ本体温度が高温になる場合はポリウレア系グリス  
 をご使用ください。交換時は全量交換してください。出荷時はアンレットANG3Dが充填されています。

《2022.06.14 改訂》

本製品の回転計には、稼働時間を積算するアワメータ（時間計）を標準内蔵しております。シャシ関係及び当社製品の給油・給脂の管理（定期点検）にお役立てください。

特に、連続高負荷運転による作業が多いお客様は、定期点検時に必ずPTO本体及びトランスミッションオイルの保守・点検を実施してください。

## ■ アワメータ取付及び油脂管理方法

アワメータ取付方法		油脂管理方法
取付場所	作動信号	
操作盤 回転計内	PTOスイッチ	<p>1) シャシ関係は、定期又はアワメータの時間に40km/hrを乗じた距離数と実際の走行距離を加算した値で管理を行ってください。</p> <p>2) 当社製品の油脂管理は、定期又はアワメータの時間で管理を行ってください。</p>



## ■ Vベルトについて

Vベルトは張りすぎると軸受が破損したり、シャフトの折損等が起こります。張り不足の場合はベルトがスリップし発熱するため耐久力が低下しますので十分注意してください。

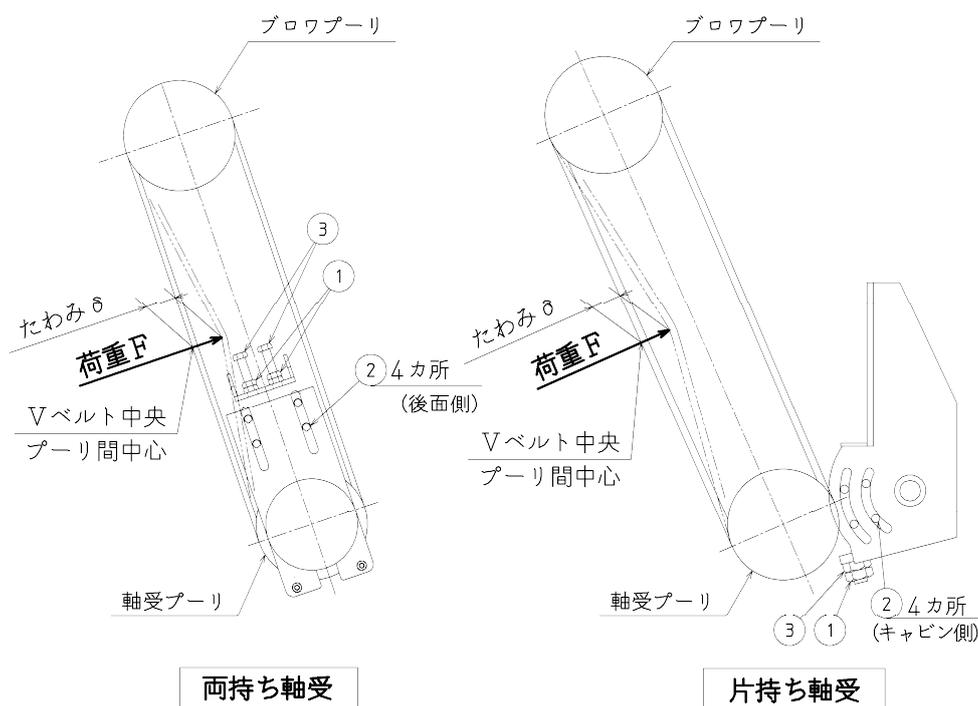
また、Vベルトには初期伸びという現象があります。これは、新品時、ベルトがなじむ段階で発生します。

## ■ 初期伸びへの対応について

ベルト交換時には新品時の張り荷重とし、約24時間運転後、張り直し1回目の張り荷重で調整します。（ただし、ベルト張力が張り直し1回目の張り荷重より大きい場合はそのまま使用してください。）以降、日常点検にて張り不足の場合に張り直し2回目以降の張り荷重にて調整してください。

## ■ Vベルト張り手順

1. ロックナット①、ロックボルト②を緩める。
2. 調整ボルト（ナット）③を時計回りに回しベルトを張る。
3. Vベルトの張り荷重を調整します。
  - a. ベルトテンションメータを用意してください。
  - b. 張り荷重Fとたわみ量 $\delta$ の数値をベルトテンションメータへセットします。  
注) 張り荷重は[新品時] [張り直し1回目] [張り直し2回目以降]で異なります。
  - c. Vベルト中央をベルトテンションメータで垂直に押し、張り荷重Fとたわみ量 $\delta$ が合うようにVベルトの張りを調整してください。  
注) 各ベルトには個体差がありますので、張り調整が極端にならないように平均値をとってください。  
注) テンションはP. 3-1-1 [Vベルト張力管理表]を参照ください。
4. ロックナット①、ロックボルト②を締める。



## バンドーテンションメーターの使用法

### 1. テンションメーター外観

測定範囲: 荷重 = 0 ~ 117.6 N (0 ~ 12 kgf)

たわみ = 0 ~ 6.2 mm

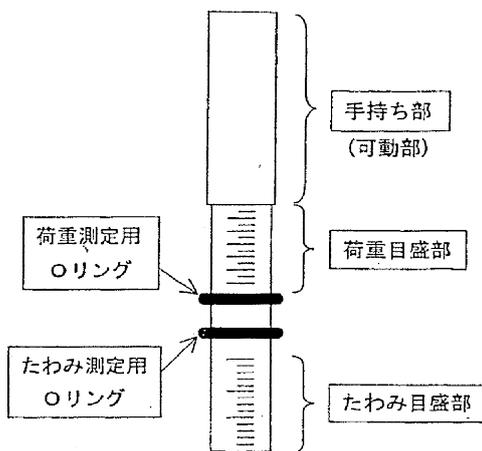


図-1 バンドーテンションメーター外観

### 2. 測定準備

- ①可動部がスムーズに動くかどうか確認する。
- ②たわみ測定用Oリングの下端を、指定のたわみ量に合わせる。
- ③荷重測定用Oリングを一番上まで上げる。

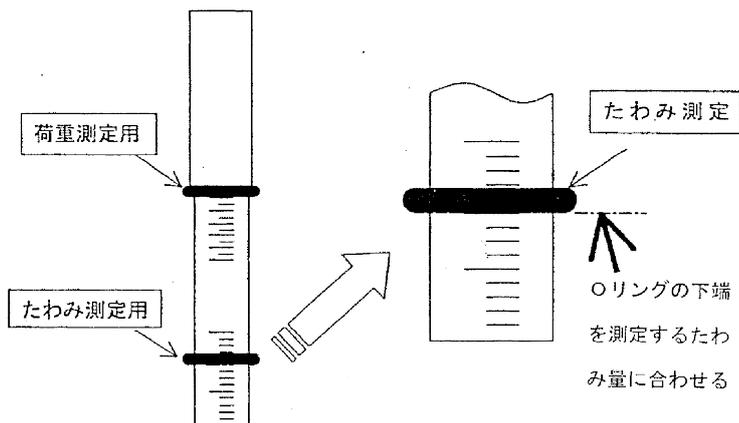


図-2 測定準備及びたわみ量測定位置

- ④スパン中央の位置をメジャー等で確認しておく。
- ⑤たわみ量の0点基準位置は、ベルト1本掛け時には糸や金尺等を用いて測定ベルト背面の位置が測定時に判るようにしておく。  
(多本掛け時は他のベルトの背面を基準として使用すると判りやすい)

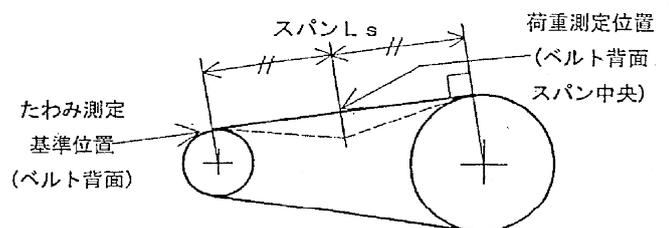


図-3 張り荷重測定位置

### 3. 測定

- ①テンションメーターはベルト背面中央に垂直に当て、ベルトに垂直方向に測定するたわみの位置までテンションメーターを押し込む。

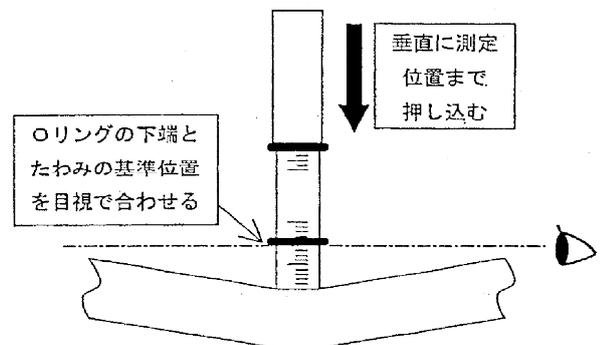


図-4 測定時のテンションメーター位置

- ②測定後に荷重測定用Oリング上端位置の荷重値を読む。

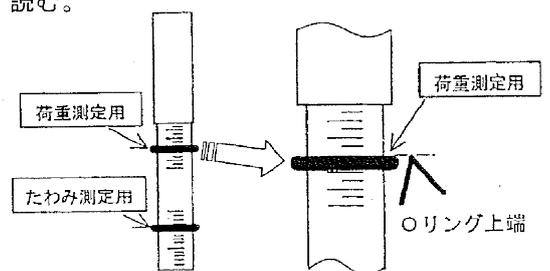
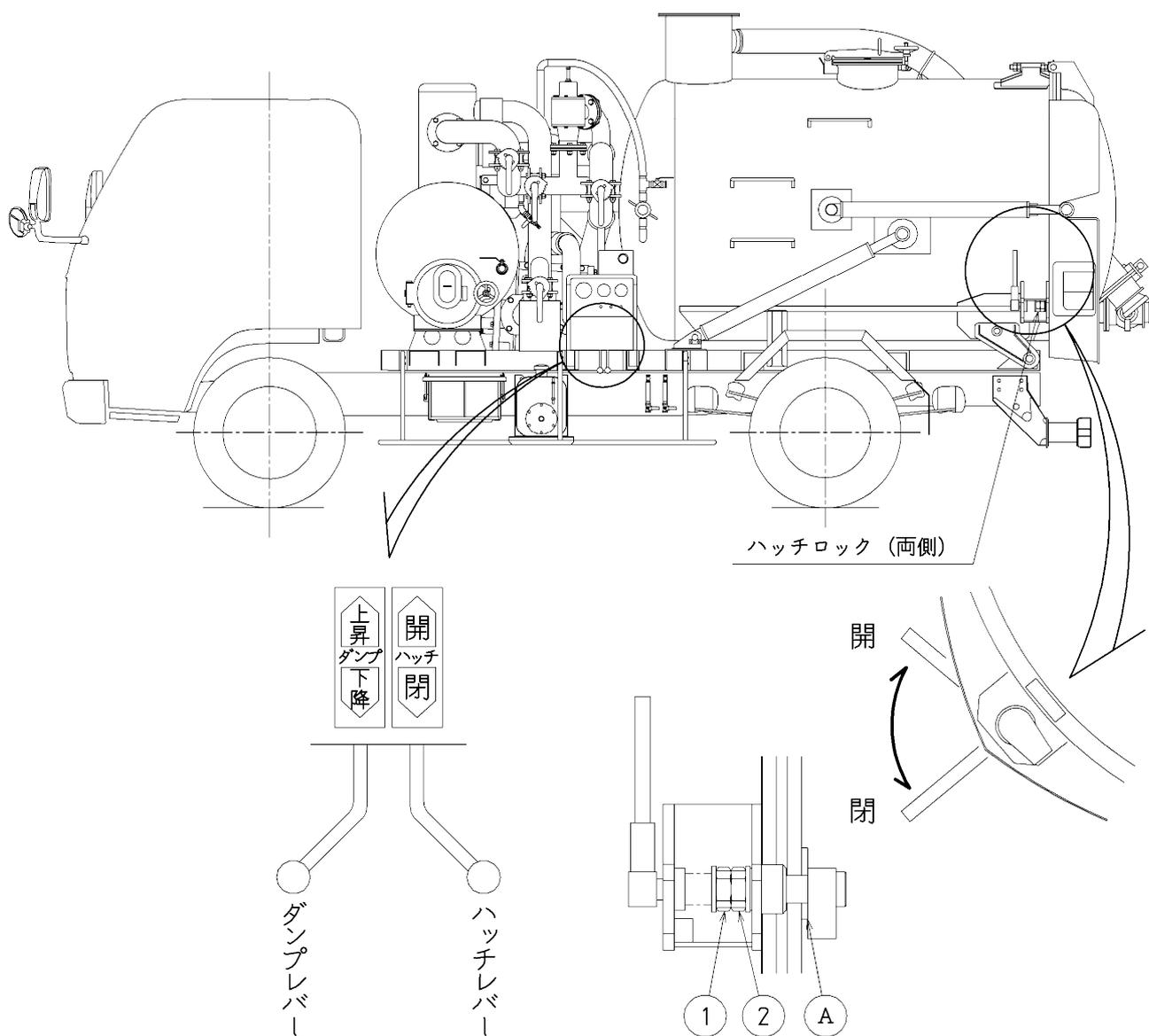


図-5 測定後の荷重読み



■ハッチロック調整

1. ハッチレバーを下げ、レシーバーハッチを完全に閉じてください。
2. ナット(M3 6)②をスパナで押さえたいうえで、ロックナット①をゆるめてください。
3. ハッチロックを『開』→『閉』と動かし、“A”部が軽く当たるまで調整ナット②を締めこんでください。(両側)
4. ナット②をスパナで押さえたいうえで、ロックナット①をロックしてください。



## ブロワ故障防止

ブロワ故障を起こすと、ひどい場合はブロワの乗せ換えが必要となる場合があります。定期的な保守・点検と、始業時・作業時の十分な確認をお願いします。

### [1] 故障原因

- (1) 錆付による故障 : 主に長期間運転をしないときに発生 (3日以上)
- (2) 焼付による故障 : 主に冷却不足、長時間及び高速運転により発生
- (3) 満量事故による故障 : レシーバータンク内の吸引物がブロワに入りこみ発生

### [2] 防止対策

		項 目	内 容
保守・点検	錆付防止	①作業終了時に、ブロワの空運転を3～5分間程度行ってください。	長期間停止する場合は、週1回定期的に空運転を行ってください。
		②インペラへの給油を行ってください。	インペラ給油バルブを『開』にし、100～200ccの油を吸わせてください。
	焼付防止	③冷却水ホース・フローゲージの点検をしてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホース内部の剥離・穴明及び詰まりがないか、確認してください。</li> <li>・フローゲージ蓋のゆるみ、パッキン・アクリル窓シートの損傷がないか、確認してください。</li> </ul>
		④逆止弁・ブレーカの点検をしてください。	動作不良及び設定値の狂いがないか、確認してください。
		⑤ベアリンググリス・ギヤオイルに不足がないか、点検してください。	油脂の交換・補給は、定期的に行ってください。
	満量事故防止	⑥満量ボールの点検をしてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満量ボールに亀裂及び破損がないか、確認してください。</li> <li>・満量パッキンの摩耗及び変形がないか、確認してください。</li> </ul>

	項 目	内 容
始 業 時	① 3次・4次キャッチャーの水量の確認をしてください。	所定の量が入っているか、確認してください。
	② 各バルブの確認をしてください。	各ドレンバルブは『閉』にしてください。
作 業 時	① 所定の回転数にて、作業を行ってください。 (P. 3-1-1 参照)	
	② 4次キャッチャーの水量が不足していないか、確認してください。	[水量不足の場合] ・水の補給を行ってください。
	③ 4次キャッチャーの水温が上がっていないか、確認してください。	[水温が上がった場合] ・水の交換をしてください。
	④ 3次キャッチャーの水量が増えていないか、確認してください。	[水量が増えた場合] ・満量事故です。すぐに負荷解放弁を『開』にして、作業を中止してください。 ※特に粉体吸引時は、十分に注意してください。
	⑤ ブロワへの流水確認をしてください。	[ブロワへ水が流れてない場合] ・配管部に詰まりがないか、確認してください。
	⑥ 粉体吸引時は、満量ボールは作動しません。ときどき作業を停止し、レシーバータンク上の点検口より、回収量の確認をしてください。	
圧 送 作 業	① 長時間の作業は行わないでください。	連続で15分間（少なくとも1時間毎）以上作業を行わないでください。
	② 所定の回転数にて、作業を行ってください。 (P. 3-1-1 参照)	

## 1. ブロワ凍結のご注意

### 1) 凍結防止対策

①一日の作業終了後、必ず各キャッチャー及びブロワの水抜きを行った後、ブロワのドレンバルブを『開』にして、空運転を5～10分行ってください。

(エンジン回転；[作業回転数一覧表]『吸引』(P. 3-1-1参照))

②空運転しても翌日凍結するようであれば、空運転後インペラ給油口より200cc程度の不凍液を吸引させてください。

(不凍液は、気温により2～4倍に適宜薄めてください。)

③極寒地区で移動中に水が凍るようであれば、3・4次キャッチャーに不凍液を使用してください。

### 2) 凍結した場合

「スチーム」または「お湯」で完全に氷を溶かした後、ブロワを回してください。

(流水ラインの凍結にも、ご注意ください。)

### 3) ブロワ始動時のご注意

必ずアイドルリングで、クラッチをいっぱいまで踏んでPTOを入れ、ゆっくりクラッチをつないでください。凍結したままで急激につなぐと、ブロワのタイミングがずれて故障する可能性があり、修理には時間がかかります。また回転後も、冷却水が流れていることを必ず確認してください。

(流水ラインの凍結にも、ご注意ください。)

## 2. バルブ凍結割れのご注意

水抜き後、バルブの開度を約「45°」にしてください。

(全開・全閉でも、バルブ割れの原因となります。)

## 3. 水ポンプ（プランジャーポンプ）付の機種について

ポンプ下部のドレンバルブより、水抜きしてください。

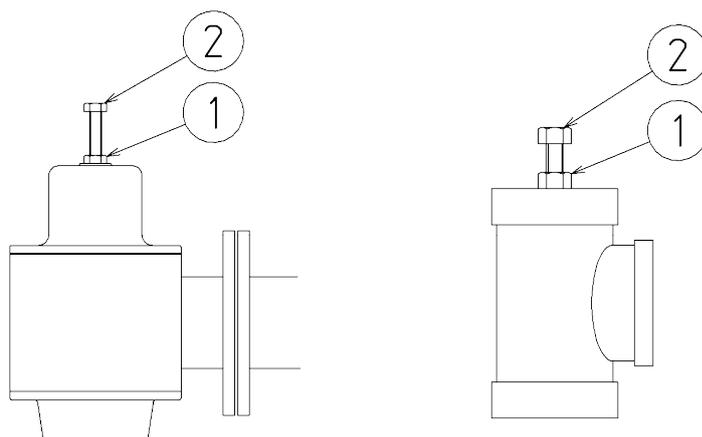
水抜き後、低速（アイドルリング状態）で数秒間空運転を行い、水ポンプ内の水を抜いてください。

長時間の空運転は、故障の原因となりますので、絶対に行わないでください。

ブレーカ設定（調整）は、当社の技術サービス担当者  
又は、サービス工場におまかせください。

## ■ブレーカ圧力設定要領

1. ロックナット①を緩めてください。
2. 調整ボルト②を3～4回転程緩めながら真空計等の圧力表示計器類にて圧力を  
読み、指定の設定圧に設定してください。  
（絶対に設定圧力以上に設定しないでください。）
3. ロックナット①を締めてください。



以上の圧力調整を行っても設定圧力に調整できない場合は、下記の原因を調べてください。

- 1) ブレーカ内に錆や粉体が入っての作動不良
- 2) 真空計等の圧力表示計器類の作動不良
- 3) 真空計等の圧力表示計器類の取り出しチューブ、ドレーナー内のつまり
- 4) ブロワ冷却循環ホース内のつまり等による冷却水不足
- 5) 吸引バルブ、レシーバーハッチ、点検口、各ドレンバルブ等が『開』になっている

## ■ 当たり板の点検

作業ホース内を通過してくる回収物は非常に流速が速い為、そのままレシーバータンクの外壁に当たるとすぐ穴があいてしまいます。その為に当たり板を取り付けています。当たり板は毎日点検してください。穴があきそうになったら早めに交換してください。

## ■ 配管・連結ホースの点検

配管の摩耗による穴あきは、吸引・圧送能力に大きく影響する場合があります。また、配管内部の錆は、ブロワ内に入り、かみ込みの原因となります。定期的に配管内を確認してください。

連結ホース表面の大きな傷や劣化は、圧送圧力による破裂の原因となります。定期的に点検をしてください。

作業用ホース及び連結ホースを締結しているバンドは、緩みが発生する事があります。緩んだまま使用しているとホースが抜けて、場合によっては大事故につながる恐れがあります。定期的に点検し、増し締めを行ってください。

トータクパワーバンド（パワーロックバンド）については、増し締め、ホース交換の際は下表の締め付けトルクを参照してください。

### ・ 作業用ホース

ラインエース（東拓） カナライン A（カナフレックス）

呼び径	50	65	75	100	125	150	200
トルク N・m (kgf・m)	9.8 (1.0)		12.7 (1.3)	19.6 (2.0)		22.6 (2.3)	

ネオ・ホームー6型（クラレプラスチック）

呼び径	50	65	75	100	125	150	200
トルク N・m (kgf・m)	14.7 (1.5)		24.5 (2.5)		29.4 (3.0)		

### ・ 連結ホース

ラインパワーAT（東拓）

呼び径	50	65	75	100	125	150	200
トルク N・m (kgf・m)	14.7 (1.5)		19.6 (2.0)	24.5 (2.5)		29.4 (3.0)	

カナパワーニューAT（カナフレックス）

呼び径	50	65	75	100	125	150	200
トルク N・m (kgf・m)	14.7 (1.5)		19.6 (2.0)	24.5 (2.5)		29.4 (3.0)	

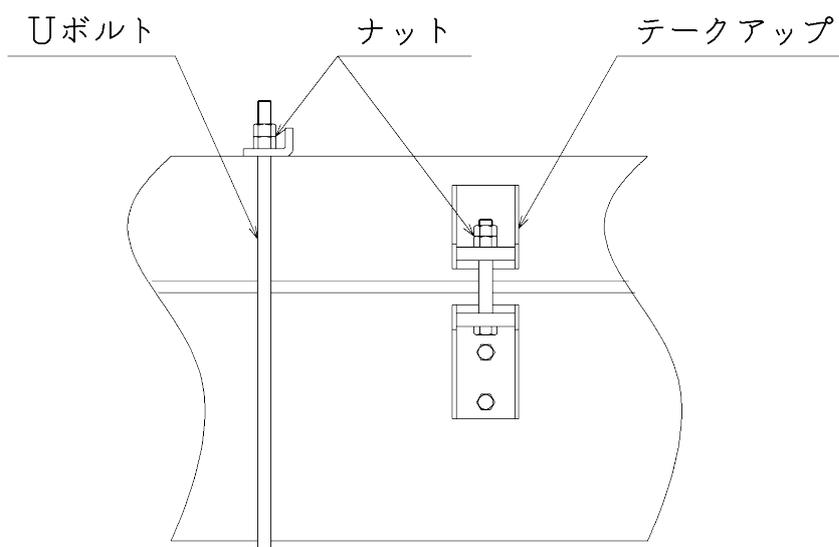
新・耐熱耐摩ホース（カナフレックス）

呼び径	50	65	75	100	125	150	200
トルク N・m (kgf・m)	9.8 (1.0)		12.7 (1.3)	19.6 (2.0)		22.6 (2.3)	

## ■ Uボルト・テークアップのナット緩みの点検

Uボルトやテークアップのナットの緩みにより、架装部品やシャシフレーム上の敷きゴムのずれが発生し、架装部品やシャシの故障等、場合によっては大事故につながる恐れがあります。

Uボルトやテークアップのナットの緩みを定期点検時及び1年毎に点検し、下表の締め付けトルクで増し締めを行ってください。



		ボルトサイズ	トルク N・m (kgf・m)
W ナット	Uボルト	M14	60 (6.1)
		M16	95 (9.6)
	テークアップボルト	M16	135 (13.7)
U ナット	Uボルト	M14	60 (6.1)
		M16	95 (9.6)
	テークアップボルト	M16	155 (15.8)

# 故障の原因と対策

故障状況	主原因	修理方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジンに異常はないが、ブロワが回転しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワインペラ部の錆付き</li> </ul>	ブロワにオイルを入れ数分間放置し、ブロワシャフトに回転力を加えてみる。 ブロワ側部の配管を外し、インペラ部の錆落としをする。 上記にて駄目な場合は、サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>オイルあるいはグリスの不純・量不足による、ブロワのベアリング焼付き</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Vベルトの破損・緩み</li> </ul>	調整・交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリス不足等による軸受ベアリングの焼付き</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>満量運転による、回収物のブロワかみ込み</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>真空圧が上がらず空気を吸い込まない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>負荷解放弁の故障による『開』状態</li> </ul>	オーバーホール・交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>連結ホースが破損している</li> </ul>	交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出口・点検口・バルブの『開』状態</li> </ul>	確実に閉じる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Vベルトのスリップ</li> </ul>	調整
	<ul style="list-style-type: none"> <li>バキュームブレーカの作動不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レシーバーハッチが完全に閉じていない。</li> </ul>	確実に閉じる。

# 故障の原因と対策

故障状況	主原因	修理方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>真空圧は上がるが、空気を吸い込まない。 (負荷解放弁からは空気を吸い込む。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業ホース・吸引管・レシーバータンク・連結ホース・2次キャッチャー・3次キャッチャーのいずれかに、回収物が詰まっている。</li> </ul>	オーバーホール
<ul style="list-style-type: none"> <li>真空圧が上がってくると、回転が下がる。 (バキュームブレーカは、正常に働いている。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジン関係の不良</li> </ul>	ディーラーに連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワインペラ部に、回収物が付着している。</li> </ul>	各キャッチャーの水を抜き、清掃を行う。再びきれいな水を入れ、無負荷運転をする。 (きれいな水でブロワ内部を洗浄する。または側部配管を外し、水道水で直接ブロワを洗浄する。)
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワより異常音が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワベアリング不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい金属等の異物が、ブロワインペラ部に付着して回っている。</li> </ul>	側部配管を外し、内部を点検する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワのタイミングがずれている。</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷却水が循環していない。</li> </ul>	冷却水循環ホースを外し、清掃する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>正常に運転はできているが、真空圧は上がりっ放し、または全然上がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真空計の故障</li> </ul>	交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>真空計接続のホースが詰まっている。</li> </ul>	オーバーホール・交換

# 故障の原因と対策

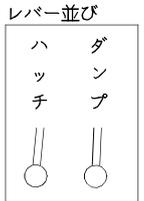
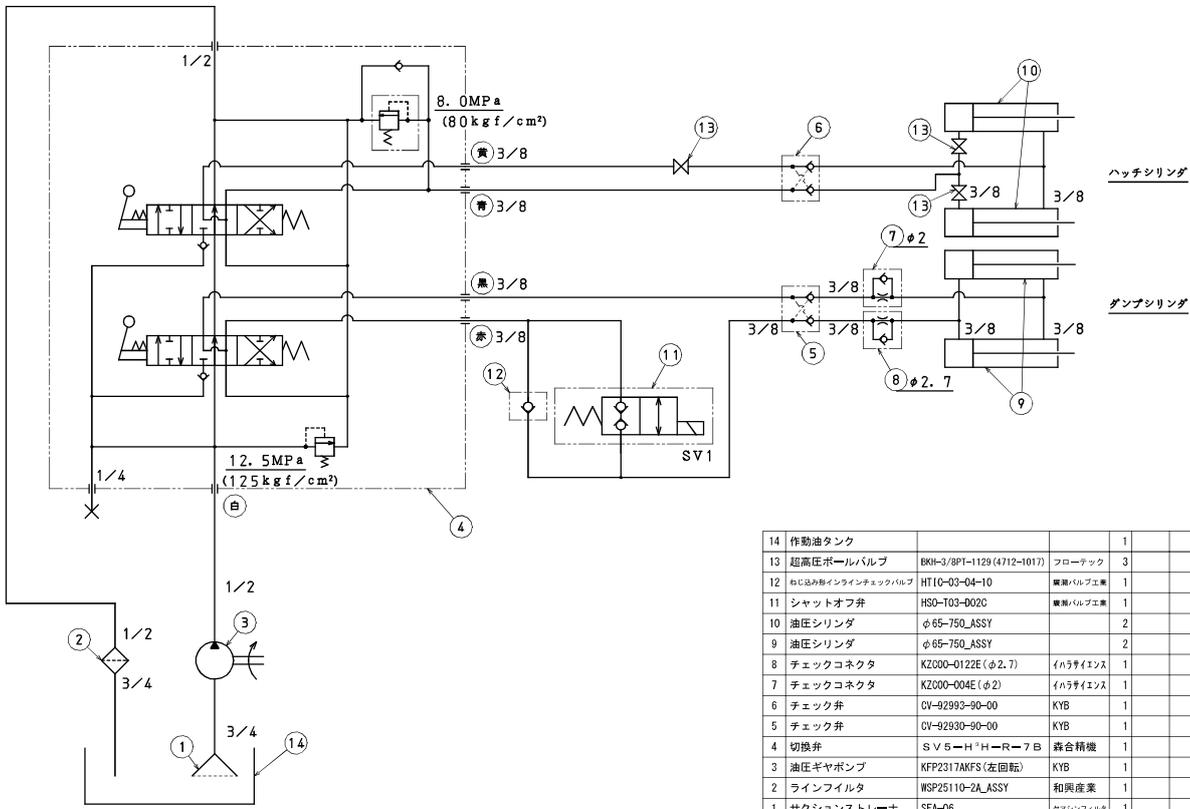
故障状況	主原因	修理方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>バキュームブレーカから空気を吸わない。または、常時吸っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作動不良、セット不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管の詰まり</li> </ul>	オーバーホール
<ul style="list-style-type: none"> <li>負荷解放弁から空気を吸わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弁の作動不良</li> </ul>	オーバーホール・交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管の詰まり</li> </ul>	オーバーホール・交換
<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンプが上がらない。レシーバーハッチが開かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作動油が少ない。(エアが入っている。)</li> </ul>	油の追加 エア抜き
	<ul style="list-style-type: none"> <li>油圧ポンプ不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラインフィルタ・サクシヨンストレーナーが詰まっている。</li> </ul>	清掃・交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>油圧切換弁内にゴミがかみ込んでいる。</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>油圧ポンプ『イン側』から空気を吸っている。(配管部等)</li> </ul>	増締め
<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンプが上がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収物の比重が重過ぎる。</li> </ul>	レシーバーハッチを開き、回収物をかき出す。
<ul style="list-style-type: none"> <li>シリンダ作動時「ガクガク」となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジン回転が低い。</li> </ul>	回転を上げる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>シールの摩耗</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアが入っている。</li> </ul>	そのまま、4～5回動かしてみる。

# 故障の原因と対策

故障状況	主原因	修理方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>一度上げたダンピングが自然に戻ってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリンダ内部にリークがある。</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>パイロットチェック弁の不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロワは回っているが、圧送圧力が上がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸排切換弁が切り換わっていない。または、作動不良。</li> </ul>	切換弁を確実に切り換える。交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>連結ホースの破損</li> </ul>	交換
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全弁の調整不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レシーバータンク点検口またはバルブ類が、開いている。</li> <li>ハッチロックがかかっていない。</li> </ul>	確実に閉じる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>圧送圧力が上がり過ぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレッシャーブレーカの作動不良</li> </ul>	サービス工場に連絡する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジン回転が高い。</li> </ul>	回転を下げる。

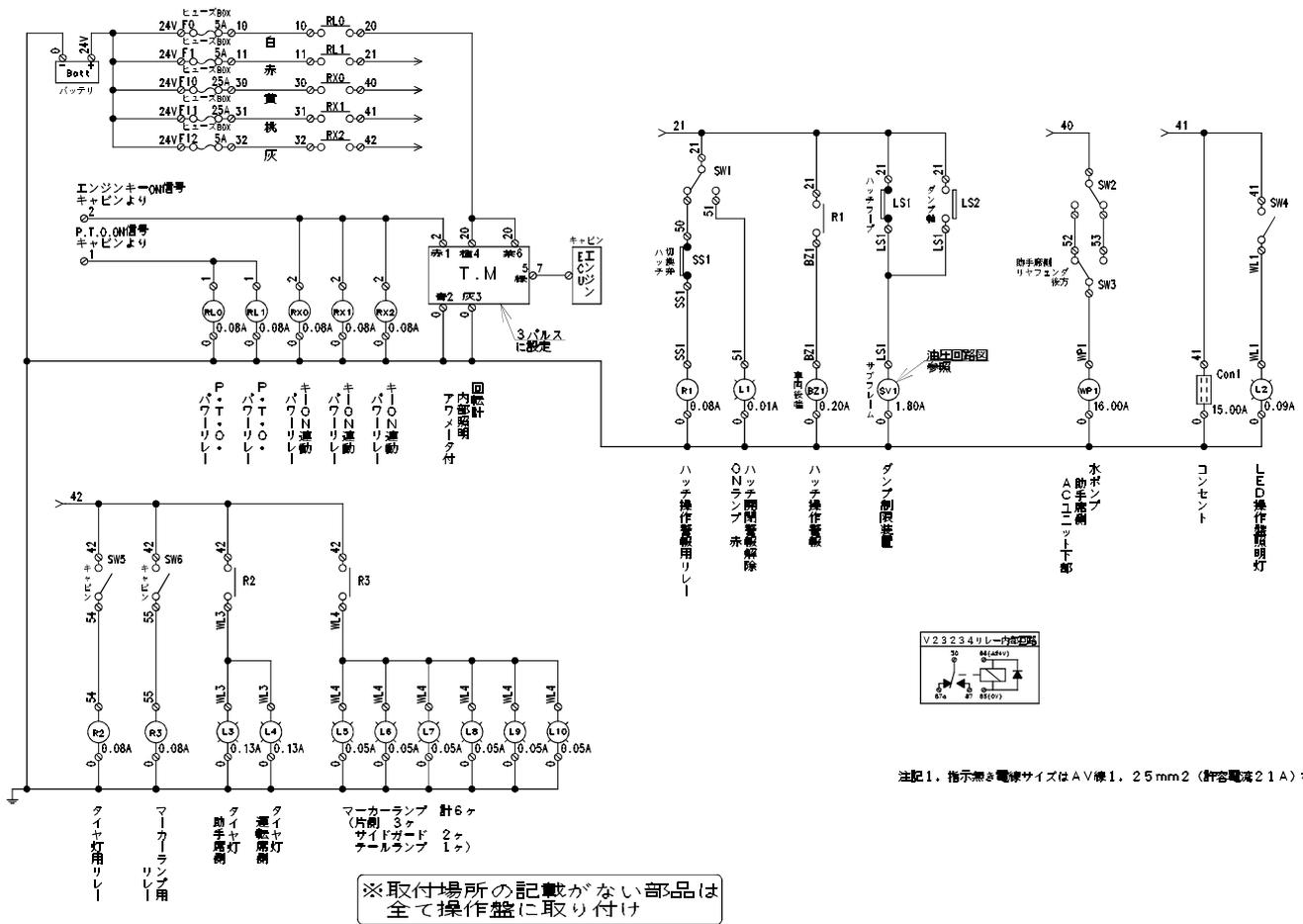


油圧回路図



14	作動油タンク			1		20L	
13	超高压ボールバルブ	BKH-3/8PT-1129 (4712-1017)	フローテック	3		耐圧31.5MPa_ボディ炭素鋼	
12	ねじ込み形オンラインチェックバルブ	HT10-03-04-10	東洋バルブ工業	1		25MPa_RC3/8_クラッキング圧0.04MPa	
11	シャットオフ弁	HSO-T03-D02C	東洋バルブ工業	1		ノーマルクローズ	
10	油圧シリンダ	φ65-750_ASSY		2		ハッチ用	
9	油圧シリンダ	φ65-750_ASSY		2		ダンパ用	
8	チェックコネクタ	KZ000-0122E (φ2.7)	イハラアイエンス	1		φ12×PT1/2	
7	チェックコネクタ	KZ000-004E (φ2)	イハラアイエンス	1		φ12×PT1/2	
6	チェック弁	CV-92993-90-00	KYB	1		Wパイロット形 (7:1)	
5	チェック弁	CV-92930-90-00	KYB	1		Wパイロット形 (3:1)	
4	切換弁	SV5-H <sup>3</sup> H-R-7B	森合精機	1		スプリングセンター_ABTオープン	
3	油圧ギヤポンプ	KFP2317AKFS (左回転)	KYB	1		16.80L/REV_20.8MPa_500°3000rpm_30°C	
2	ラインフィルタ	WSP25110-2A_ASSY	和興産業	1		口径_PT1	
1	サクションストレーナ	SFA-06	ヤマシロフィルタ	1		口径_PT3/4	
符号	部品名称	部品型式	部品材質	数量	単品質量	合計質量	備考

電気回路図

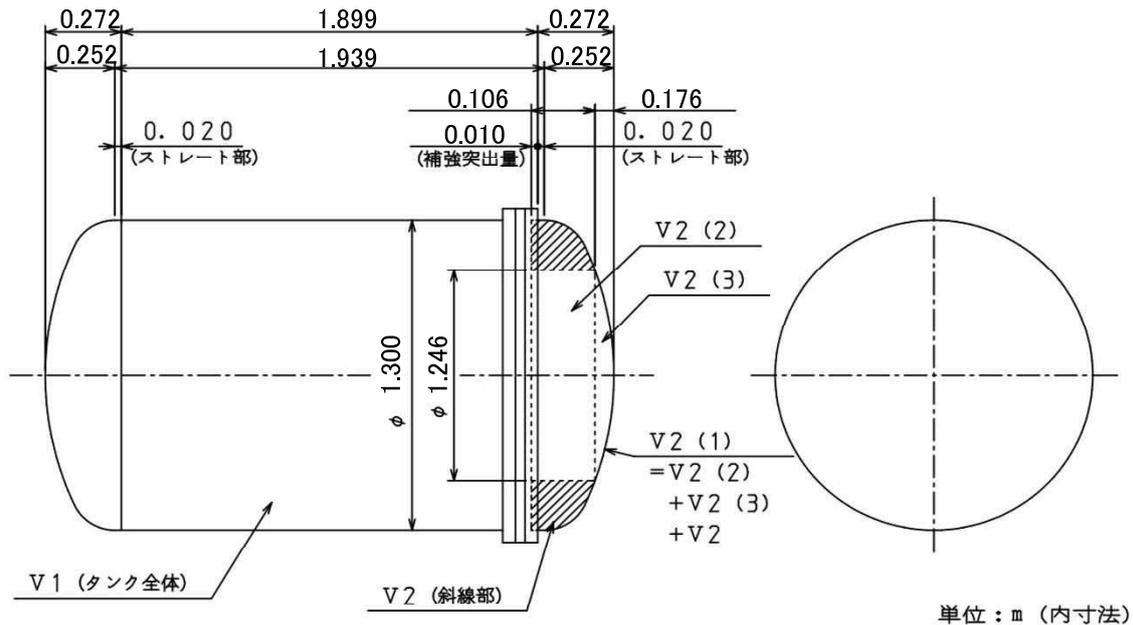


注記1. 指示無き電線サイズはAV線1.25mm<sup>2</sup>(許容電流21A)相当。

# 電気回路図部品表

符号	部品名称	部品型式	メーカー	数量	備 考
1	バックアラーム	BA311-12	山口電機	1	BZ1
2	フル防水コンセント	WK-2103_15A*30	Panasonic	1	Con1
3	ミニ平型ヒューズ	4016-204_5A		3	F0~1.12
4	ミニ平型ヒューズ	4016-209_25A		2	F10~11
5	メタルフレーム形LED超高輝度表示灯(赤)	DUL-10HJT-IP-R/C	坂詰製作所	1	L1
6	マーカーランプ	LEDクリスタルSマーカー DC24V 黄色	日本ボデーパーツ工業	6	L5~10
7	LED操作盤灯	OSL-1900WJ	オカノ電機	1	L2
8	LED B型路肩灯	LSL-1005A(L)	日本ボデーパーツ工業	1	L3
9	LED B型路肩灯	LSL-1005A(R)	日本ボデーパーツ工業	1	L4
10	リミットスイッチ	D4C-1224	オムロン	2	LS1~2
11	リレー	V23234-A1004-X094	TE	8	R1~3.RL0~1.RX0~2
12	近接スイッチ	E2E-X7D212-2M	オムロン	1	SS1
13	スナップスイッチ	S-332-J	日本開閉器	1	SW1
14	スナップスイッチ	S-422-J	日本開閉器	2	SW2~3
15	スナップスイッチ	S-331-J	日本開閉器	1	SW4
16	キャビン内スイッチ(プッシュスイッチ)	84270-37360	HINO	2	SW5~6
17	回転計	A2C53194790	VDO	1	T.M
18	水ポンプ	WP24-180B12_ASSY	永興電機	1	WP1
19	キャビン内スイッチ用コネクタ	82989-37260	HINO	2	SW5用.SW6用
20	回転計8ピンコネクタ	A2C59510850	VDO	1	T.M用

**有限会社 TEM'S 様 納入 MP-03BVP  
レシーバータンク容積計算書 (製造番号 2207029)**



(1) レシーバータンク全体容積 (V1)

$$V1 = 0.09896 \times 1.300^3 \times 2 + \pi / 4 \times 1.300^2 \times 1.939$$

$$= 3.009 \quad (\text{m}^3)$$

(2) 内部構造による非回収部 (V2) の容積

$$V2(1) = 0.09896 \times 1.300^3 + \pi / 4 \times 1.300^2 \times (0.010 + 0.020)$$

$$= 0.257 \quad (\text{m}^3)$$

$$V2(2) = \pi / 4 \times 1.246^2 \times 0.106$$

$$= 0.129 \quad (\text{m}^3)$$

$$V2(3) = \pi / 3 \times (3 \times 1.300 - 0.176) \times 0.176^2$$

$$= 0.121 \quad (\text{m}^3)$$

$$V2 = V2(1) - V2(2) - V2(3) = 0.257 - 0.129 - 0.121$$

$$= 0.007 \quad (\text{m}^3)$$

従って、レシーバータンク全容積Vは

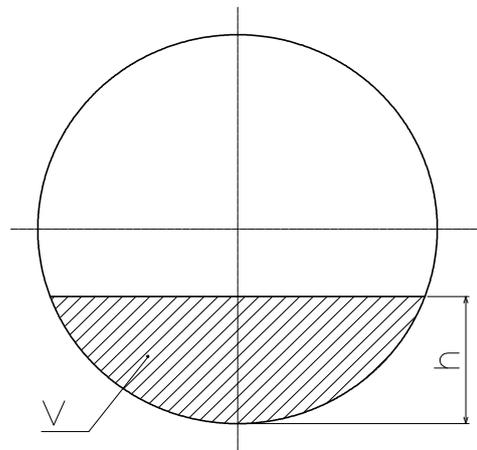
$$V = V1 - V2 = 3.009 - 0.007$$

$$= 3.002 \quad (\text{m}^3)$$

となり 全容積 3.0 m<sup>3</sup> とします。

# レシーバータンク容積積算表

V(m <sup>3</sup> )	h(mm)
0.1	102
0.2	161
0.3	211
0.4	256
0.5	298
0.6	337
0.7	375
0.8	412
0.9	447
1	482
1.1	516
1.2	550
1.3	584
1.4	617
1.5	650
1.6	683
1.7	717
1.8	750
1.9	784
2	818
2.1	853
2.2	889
2.3	925
2.4	963
2.5	1003
2.6	1044
2.7	1089
2.8	1139
2.9	1198
3	1293
3.002	1300



【サービスデータシート】

製造番号	2207029	機種	MP-03BVP
ユーザー	有限会社 TEM'S		様

仕様関係

No.	項目	諸元
1	シャシ メーカー/ 型式 / 車台番号	HINO / 2PG - XZU640F-TKFSY6 / XZU640-0007558
2	タンク径・容積	φ 1300 × 3.0 m <sup>3</sup>
3	吸引風量	20 m <sup>3</sup> /min
4	吸引作業回転数 / 吸引静圧	1350 ~ 1550 rpm / - 96 kPa
5	排出作業回転数	1000 ~ 1200 rpm
6	圧送作業回転数 / 圧送圧力	1200 ~ 1400 rpm / 0.07 MPa
7	洗浄作業回転数 / 高压水圧力 / 水量	- ~ - rpm / - MPa / - ℓ/min
8	ブロワ型式 / 製造番号 / メーカー	BT - 125AV / 2411 / アンレット
9	ブランチャーポンプ型式 / 製造番号 / メーカー	- - - / - / -
10	所要動力	32 kW
11	その他	

レシーバータンク関係

No.	項目	諸元
1	吸引管径 / ハルブ径(メーカー) / 金具	100 A (助手席側振り) / φ 100 (野入) / 衛生ネジ
2	排出管径 / ハルブ径(メーカー) / 金具	- A ( - ) / φ - ( - ) / -
3	排出管径 / ハルブ径(メーカー) / 金具	100 A (真下) / φ 100 (野入) / 衛生ネジ
4	当たり板サイズ / 材質	t 16 × 300 × 400 / コム
5	連結ホース径 / 長さ / 型式	φ 100 / 5200 L / カナパワーニューAT
6	ハッチパッキン長さ / 材質	4300 L / EPDM
7	満量ホール型式 / 材質	LLK - 3 φ 240 / ABS

駆動部関係

No.	項目	諸元
1	Vベルト型式 / 本数	5VX - 800 - / 4 本
	張り荷重(たわみ 11.4 mm)	新品 59 N / 1回目 58 N / 2回目 58 N
2	駆動シャフト型式 / 面間距離 / パイプ長	KUJ-30(SS035P-R) / 566 L / - L / テクス清水
3	軸受型式	N2A 型

その他

No.	項目	諸元
1	スロットル形式	電気式
2	その他	レシーバータンク:縦型テールランプLED丸型2連(5-8678-0821-3)/ICL :ハッチレハベルゲージ(アクリル製・380L) 洗浄装置:SUS製水タンク100ℓ